KIORITZ

取 扱 説 明 書

共立クローラ形
スピードスプレーヤ

SSC433S
SSC433T

⚠ 警告
ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。 取扱説明書の指示内容を守ってください。 守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

はじめに

- 共立クローラ形スピードスプレーヤをお買い上げいただき、ありがとうございます。
- このスプレーヤは果樹園で散布作業を行なうための高性能防除機です。正しく使用すると充分効果的な散布が保たれるよう設計されています。
- 取扱説明書に書かれている目的以外に使用しないでください。
- この取扱説明書には、組立や操作、整備に必要な事項が書かれていますので正しく効果的な製品の取扱いができるよう、よく読んで理解してください。
- このスプレーヤに関してご不明な点、ご質問がある場合は、車体銘板に書かれている形式・車体番号を確認し、販売店にお問い合わせください。
- 本書に記載されている仕様や解説あるいは説明のために例にあげ、図示されている内容は、改良のため予告なしに変更することがあります。
- 取扱説明書の内容は製品の標準装備を基本に構成していますが、特別注文品（オプション）やアクセサリを使用する場合も含まれます。
- 単位はＳＩ単位（国際単位系）を使用しています。（　）内は参考値ですので若干の換算誤差がある場合もあります。

目次

はじめに……２
警告表示ラベルの意味……３
正しい作業のために……５
各部の名称……１７
各部の取扱いと操作……２１
使用準備……２７
運転……３０
薬液散布……３３
散布作業……３３
散布方法……３９
散布終了後の手入れ……４０
寒冷時の格納……４０
点検・整備……４１
故障対策……４３
長期格納整備……４５
仕様……４６
付属部品一覧……４７

⚠ 危険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものです。

⚠ 警告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものです。

⚠ 注意

その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものです。

⚠ 警告

- 正しい作業のための警告・注意を注意深くよく読んで理解すること。
- 正確で正しい操作のために、この取扱説明書を必ず読んでください。

重要

重要として囲まれた文章は、この取扱説明書で説明されている機械の使用、点検、保守・保管に関する注意事項です。

丸に左斜線の入ったこの記号は、表示されているものが全て禁止されていることを表わします。

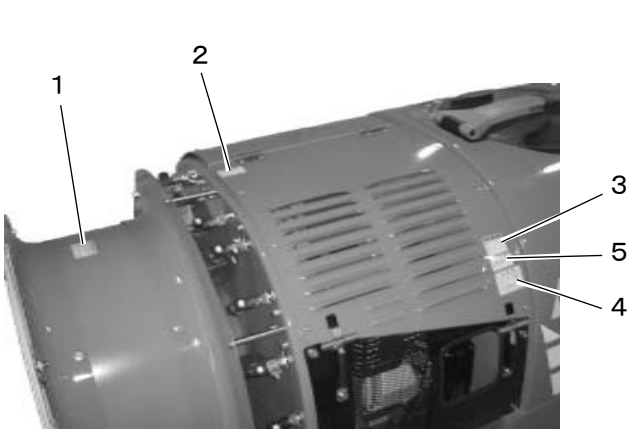
⚠ 注意

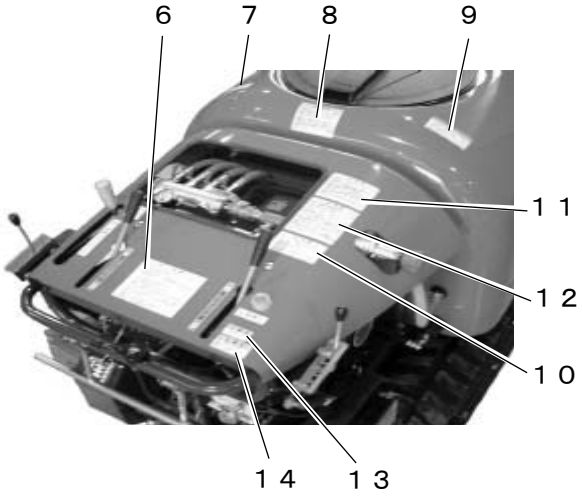
- この取扱説明書は、いつでも読めるように、紛失、汚損の恐れのない、すぐ取出せる所に必ず保管してください。
- この説明書が損傷により読めなくなった場合、紛失した場合は、販売店より新しく取扱説明書を購入し、常に参照できるよう保管してください。
- この取扱説明書で解説している機械を貸与する場合、借りて作業をする人に、この取扱説明書を読ませ、充分な指示、訓練を行なった後、この取扱説明書とともに機械を貸与してください。
- 製品を譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。
- ご不明なことやお気付きのことがございましたら、販売店にご相談ください。

警告表示ラベルの意味

● 取扱説明書で解説されている機械には、４ページの表の「警告表示ラベル」が貼付してあります。
ご使用前に「警告表示ラベルと解説」で確認し、ラベルの意味を理解してください。

● ラベルが摩滅したり破損して内容が確認できなくなった場合や、はがれて紛失した場合は、販売店から新しくラベル（４ページの警告表示ラベル一覧のもの）を購入し、下図の指示番号位置に貼り、常にラベルが確認できる状態を維持してください。

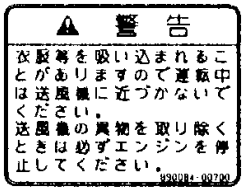






警告表示ラベルと解説

1



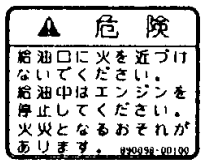
890084-00700

2



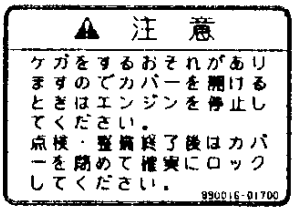
890016-01800

3



890098-00100

4



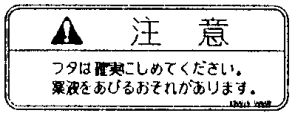
890016-01700

5



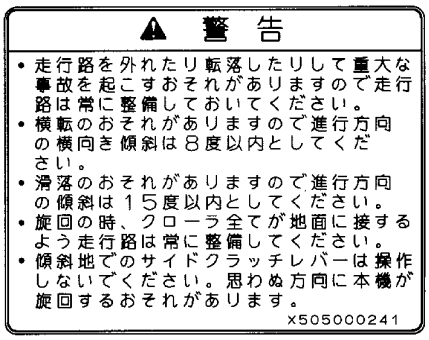
890016-01900

7



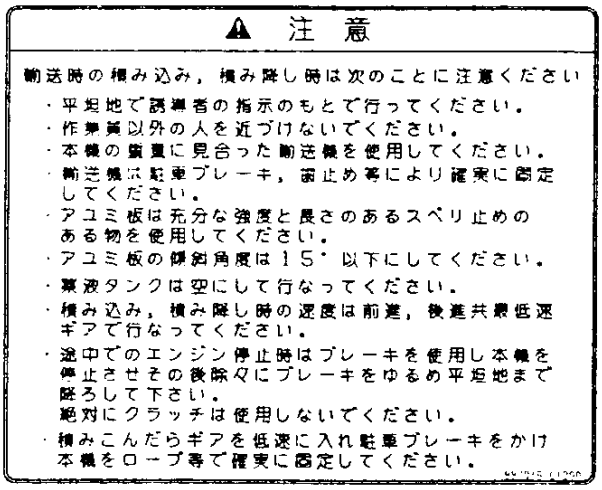
890016-00600

8



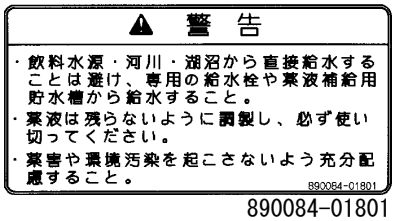
X505-000241

6



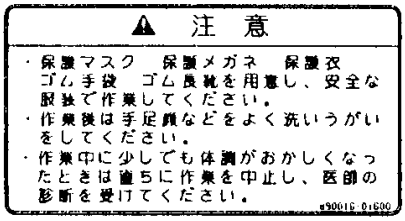
890016-01200

9



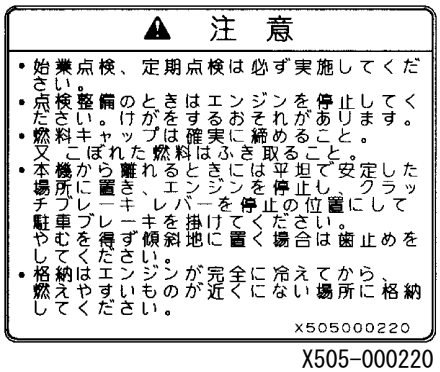
890084-01801

１０



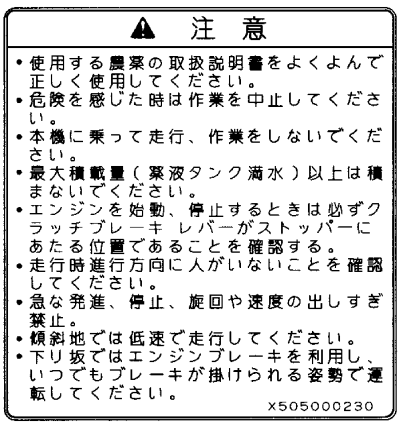
890016-01600

１１



X505-000220

１２



X505-000230

１３



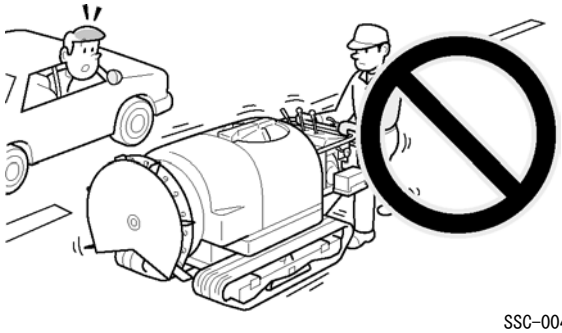
890084-00300

１４



890084-00500

正しい作業のために


SSC-004


SSC-005

⚠ 警告

このスプレーヤで一般道路の走行はできません。

⚠ 警告

スプレーヤを初めて使用する場合は、使用したことがある人の指導のもと、作業を行なってください。

⚠ 警告

・ 夜間や、視界が悪く暗い場所では、機械を絶対に操作しないでください。

☆ 誤った操作による事故や、薬害事故を引き起こす原因となります。

・ 風が強いときには絶対に散布を行なわないでください。

☆ 風向きが急に変わり、予期しない方向へ農薬が飛んでしまうことがあります。

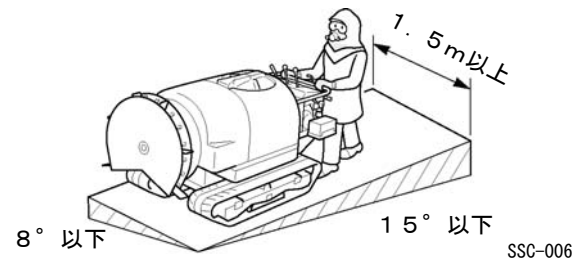
⚠ 警告

作業前に必ず以下のように散布作業の計画をたててください

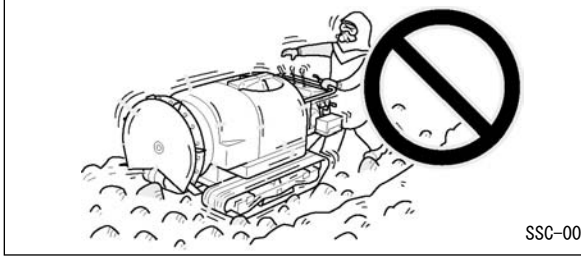
・ 薬剤の種類、量を決める。
・ 走行路を点検する。
・ 走行速度を決める。
・ 作業手順を確認する。

⚠ 警告

・ ほ場への進入前に「低速」にし、ゆっくり走行してください。
・ 走行路の傾斜に対し直角に進入してください。斜め進入は転倒事故の原因になります。



SSC-006


SSC-007

作業場所を点検する

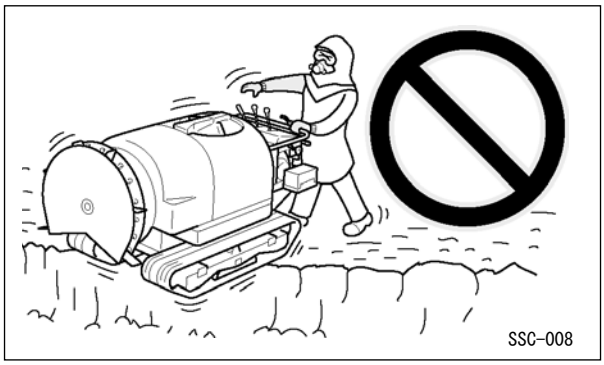
以下の点検を実施してください。

ほ場への出入り

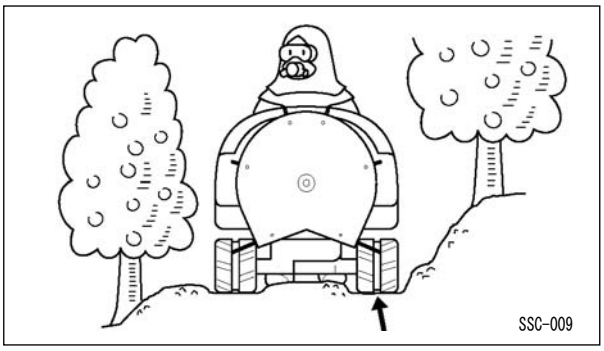
- ほ場への進入角度は１５° 以下としてください。
- ほ場への進入路の地盤が弱い場合は、砕石や砂利を敷いて堅固にするなど、進入路の整備をしてください。

走行路の点検

- 地面の幅が１．５m以上である。
- 地面の傾斜が適切である。横向きの傾斜が８° 以下、進行方向の傾斜が１５° 以下である。
- 地面の固さがスプレーヤの運転に適している。
- 路面が平らである。

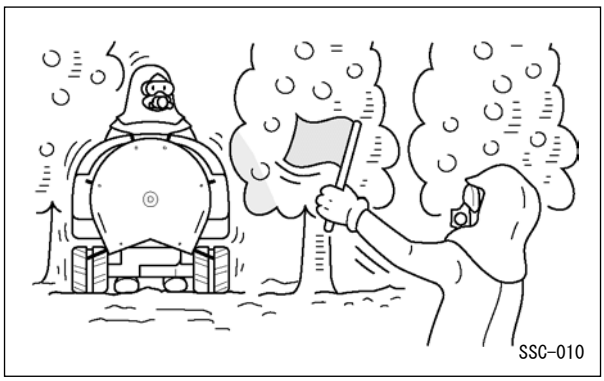


－車両の方向を変える場所で、クローラが全て地面に接している。



走行路の補修

－壌土だけの道路は、雨上がりに崩れやすくなります。またスリップなども起きやすくなります。砂利などを敷いて補修してください。
－路面が柔らかい所は草などを植え、水はけを良くしてください。
－傾斜地では高い方の路面に溝を掘り、クローラの案内溝を作ってください。走行が安定します。



●散布作業を二人以上で行なう場合、主任作業者とそれぞれの作業の専任者を決めてください。共同作業を行なう場合、あらかじめ号令、手先信号を決めておいてください。

●視界が悪い場所などでは、誘導する人を決めてください。手旗などでスプレーヤ運転者にまわりの状況を伝え、作業を行なってください。

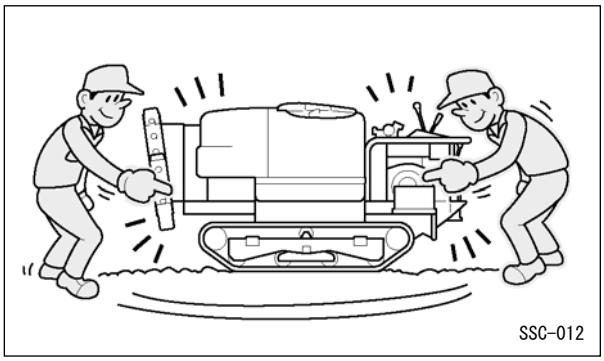


からだの状態

●病気のときや体調が悪いとき､妊娠中の場合､また､アルコールや体の機能に影響を及ぼす薬を飲んだときには作業を行なわないでください。

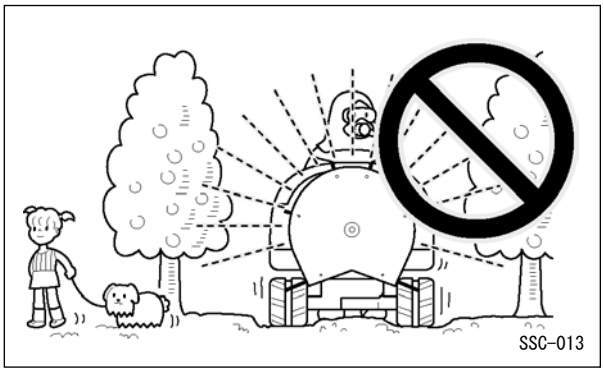


●スプレーヤの運転、操作は体力を消耗します。長時間の作業を避け、適度に休みを取ってください。



作業前の点検をする

● 各部品がきちんと取付けられているか確認してください。

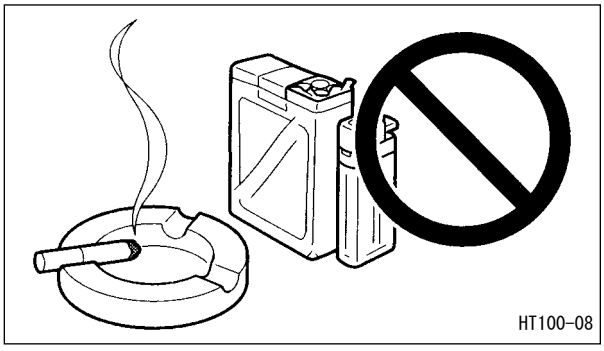


● 子供や作業に関係のない人が近くにいないことを確認してください。



⚠ 危険

スプレーヤを不安定な場所や転倒の恐れがある傾斜地に置かないでください。



⚠ 警告

- 燃料を扱うときは、絶対にタバコを吸ったり、火気を近づけないでください。

☆ 燃料に引火して火災を起こしたり、火傷を負うことになります。

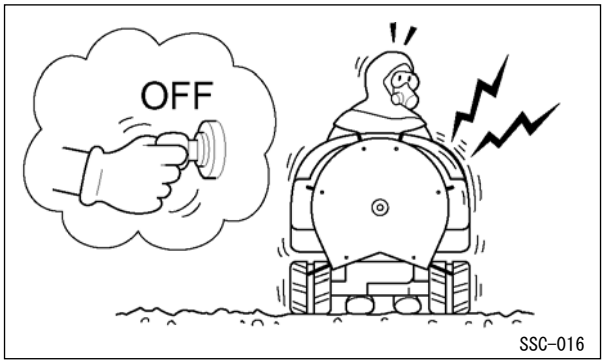
運転



⚠ 警告

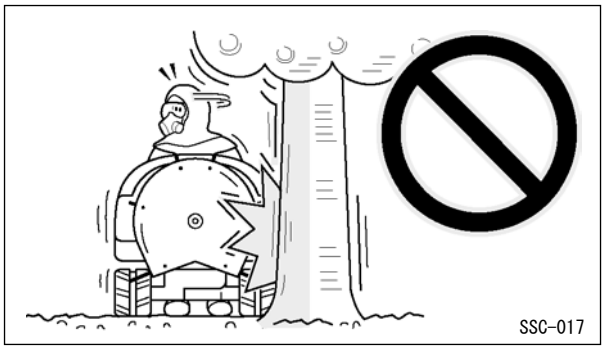
・ 本機に人や荷物を乗せて走行しないでください。

☆ 転落事故や重症を負う原因となります。

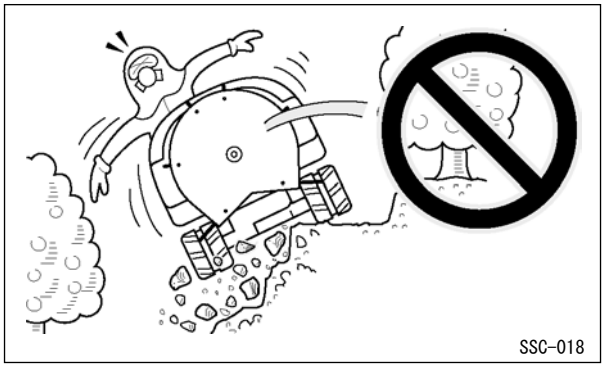


⚠ 注意

危険を感じた場合はすぐに運転を中止し、エンジンを停止してください。



● 走行中はよそ見をしないでください。
作業場所以外を見るときは、必ず車両を停止してください。



⚠ 危険

テラス式（等高線方式）の道路の路肩は崩れやすくなっています。充分気をつけて走行してください。

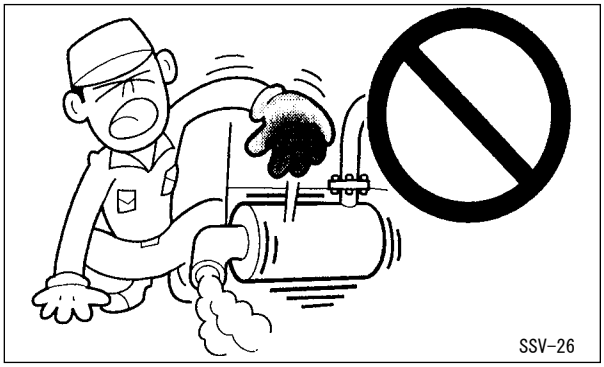
● 凸凹路の走行は本機の姿勢が大きく変化し進行方向が大きく変わりますので、運転時は必ずハンドルから手を放さないようにしてください。



⚠ 警告

- 燃料を補給するときは、必ずエンジンを停止してエンジンが冷えてから行なってください。
- 燃料給油時はこぼさないように注意してください。（燃料タンクの口元まで給油しないでください。）燃料をこぼした場合は、すぐに拭き取ってください。
- 燃料タンクキャップを確実に締め付けてください。
- 燃料タンクや燃料ホースから燃料の漏れや　にじみがある場合は直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

☆ こぼれた燃料に引火して火災や火傷の原因となります。



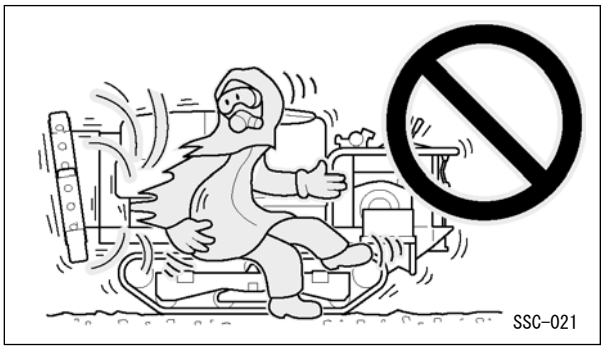
● マフラなどの加熱部は高温になりますのでさわらないでください。



⚠ 警告

- エンジンの排気ガスには、死に至る有毒なガスが含まれています。室内や通気の悪い場所でエンジンを始動しないでください。

☆ 排気ガスによる中毒事故の原因となります。

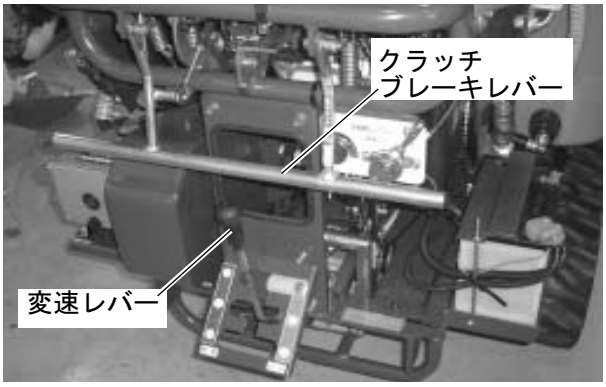


⚠ 警告

運転中は送風機に近づかないでください。衣服が吸い込まれることがあります。送風機から草などを取除くときは必ずエンジンを停止し、ファンが確実に停止していることを確認してください。

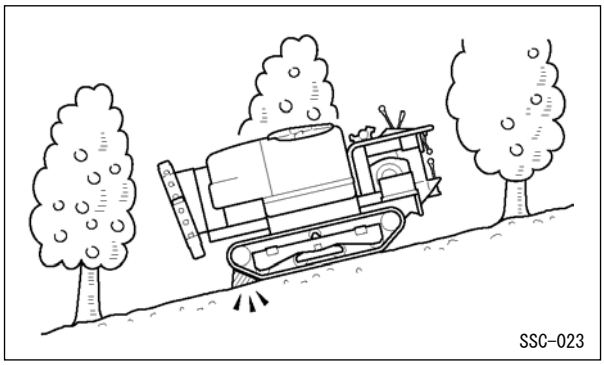
坂道を走行する

● 坂道を走行する前に、変速レバーを低速にしてください。



⚠ 警告

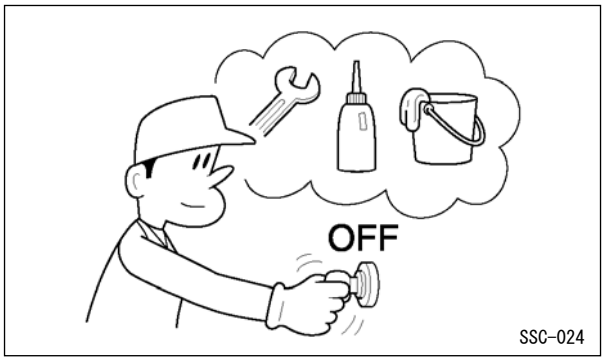
- 坂の途中でクラッチブレーキレバーや変速レバーを操作しないでください。
- 同じ坂道でも、降りるときは登るときより加速がつきます。降りるときには速度を遅くしてください。



⚠ 警告

坂道で車両を止めた場合は、クローラに歯止めを掛けてください。

作業が終わったら

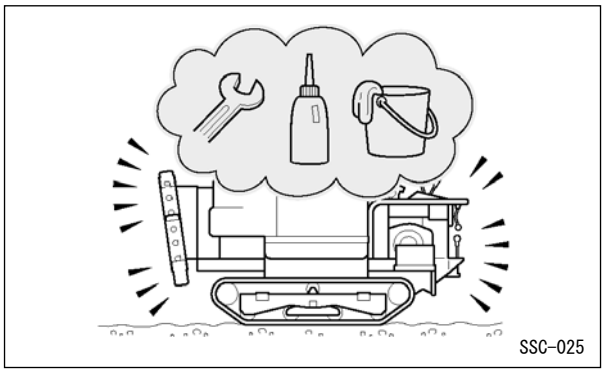


● 作業が終わったらエンジンを停止して、取扱説明書に従い清掃を行なってください。

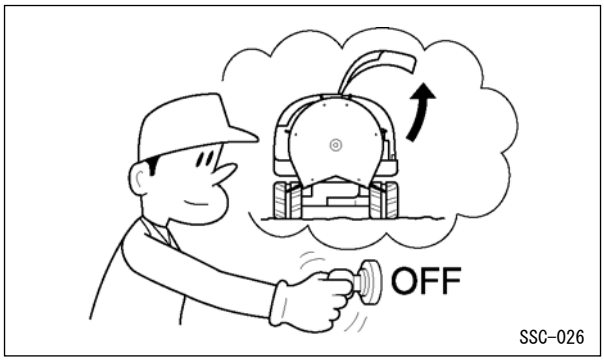
点検・整備を行なう

⚠ 警告

修理、清掃などの作業を行なうときは、必ずエンジンを停止してください。



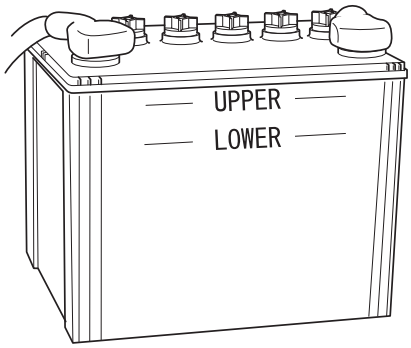
- 修理、清掃などの作業は、障害物や火気のない安定した場所で行なってください。
- 毎月、毎年の点検・整備を行なった日を記録してください。
- １年に１回以上は、お買い求めの販売店に、定期点検を依頼してください。
- 駐車するときは必ずブレーキを掛けてください。
- 取扱説明書に従って正しい時期に点検・整備を行なってください。



⚠ 危険

カバーを開けるときはエンジンを停止してください。また点検・整備が終わったらカバーを閉めてロックしてください。

● 燃料こし器エレメントは軽油で洗浄してください。ガソリンで洗浄しないでください。



⚠ 危険

バッテリ取扱いの注意

- バッテリの取扱いはバッテリ液、火気などに充分注意してください。
- バッテリの液量がバッテリの側面に表示されている下限（LOWER LEVEL）以下になったまま使用または充電をすると、バッテリの破裂（爆発）の原因となる恐れがあります。
- バッテリの液量がバッテリの側面に表示されている下限（LOWER LEVEL）以下で使用を続けると、容器内の各部位の劣化の進行が促進され、バッテリの寿命を縮めたり、破裂（爆発）の原因となる恐れがあります。
- バッテリのコードは押え金具などの金属部分に近づけないようにして確実に固定してください。接触（ショート）すると引火爆発や火災の原因となる恐れがあります。
  プラスターミナルにカバーがある場合は、きちんとカバーをしてください。
- バッテリの上またはバッテリカバーの上には、物を置かないでください。

重要

点検・整備は、本取扱説明書およびエンジンの取扱説明書に従って行なってください。

充電を行なう

⚠ 警告

- 充電を行なうときは、換気を行ないタバコなどの火気を近づけないでください。
- 本機にバッテリを載せたまま充電するときは、エンジンを停止してください。電源を必要とするスイッチを切り、マイナス側のターミナルを外してください。
- 充電クリップの接続、取外しの前に充電器のスイッチを切ってください。
- 充電中にバッテリテスタを使用しないでください。
- バッテリ液に触れるとやけどをしたり、また、目に入ると失明する恐れがあります。 バッテリ液を扱うときは手袋、保護めがねをしてください。万が一触れたり、目に入った場合はすぐに水で洗い流し医師に相談してください。

保管する

- 保管する前に必ず薬液タンク、配管、ポンプの水を抜いてください。水が残ると寒冷時に凍結し薬液タンクなどの薬液配管系統部品を破損することがあります。
- 保管する前にエンジンから燃料を抜いてください。
- 走行・ポンプエンジンキースイッチ、送風エンジンキースイッチのキーを必ず抜いてください。
- ブレーキを掛けてください。
- 以下のような場所に保管してください。

ー 熱、直射日光にさらされない。
ー 湿気が少ない。
ー 安定している。
ー 子供がさわることができない。
ー 火気がない。

薬液散布について

農薬使用上の留意点

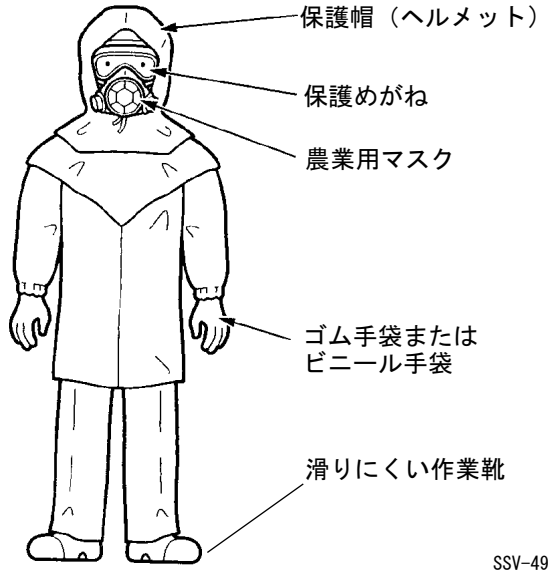
● 農薬ラベルをよく読んでください。
農薬の使用にあたっては、農薬ラベルに記載されている事項を確認してから使用してください。

● 農薬取締法が改正されました。
平成１５年３月の農薬取締法改正にともなう省令に基づく使用基準により
①使用する作物に登録のある農薬を使用する、
②使用濃度（希釈倍率）及び面積あたりの使用量、
③収穫前使用日数、④使用回数の４点については農薬使用者が遵守する義務が生じています。

⚠ 警告

- 飲料水源・河川・湖沼から直接給水することは避け、専用の給水栓や薬液補給用貯水槽から給水してください。
- 薬液は残らないように調製し、必ず使い切ってください。
- 薬害や環境汚染を起こさないよう十分配慮してください。

☆ 第三者が農薬と知らずに誤って飲み込むなど、重大な薬害事故の原因となります。



重要

薬剤は濃度が均等になるように溶かしてください。固まりが残ると、ノズルの目詰まりの原因となります。

⚠ 注意

農薬使用上の注意

- 散布時は、農業用マスク、手袋、長ズボン、長袖の作業衣などを着用してください。
農薬に直接触れないよう注意してください。
- 作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼してください。
- 農薬が目に入らないように注意してください。
- 誤飲、誤食に注意してください。誤って飲み込んだ場合は、吐き出し、直ちに医師の手当てを受けてください。また、農薬使用中に異常を感じたときは、直ちに医師の手当てを受けてください。
- また、農薬の種類によっては、
  ☆ 農薬が目に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当てを受けてください。
  ☆ かぶれを生ずる場合がありますので注意が必要です。また、かぶれやすい人は、使用を控える必要があります。
- 環境へ配慮した使用が必要です。
  ☆ 防除対象作物以外への飛散がないよう注意してください。
- 農薬は、子供の手が届かない場所に保管してください。

薬液散布前の注意

● 保護帽（ヘルメット）を着用してください。次のような効果があります。
－ 転倒したときに重大な事故を防ぐ。
－ 騒音から耳を保護する。
－ 農薬から身体を守る。

● 滑りにくい作業靴を履いてください。
つま先のあいた靴、サンダル、はだしで散布作業を行なわないでください。

● 薬液を散布する場合、頭、足、その他の外部にさらされる部分を保護する衣服、保護具を身に付け、農薬が皮ふに触れないようにしてください。

● 薬液が浸透しない防水性に優れ、汗をかきにくい通気性のよい衣服を身に付けてください。

● 汗を拭いたり顔を洗うためにタオル、手ぬぐい、水などを用意してください。

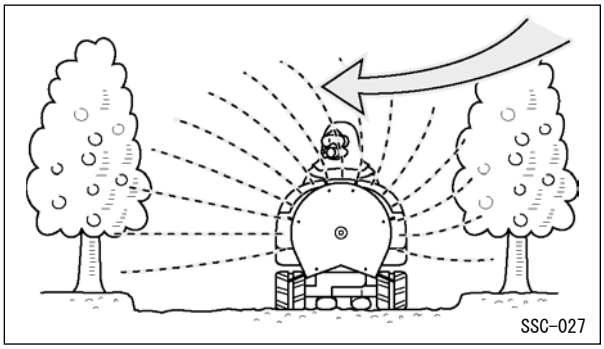
● 作業を行なう場所をよく調べ、作業者以外の人、子供、家畜、養蚕、養蜂、他の作物などが近くにないことを確認してください。

● 専用の給水栓や薬液補給用貯水槽から給水してください。飲料水源・河川・湖沼からは直接給水しないでください。

薬液散布中の注意

⚠ 警告

風が強いときには絶対に散布を行なわないでください。風向きが急に変わり、予期しない方向へ薬液が飛んでしまうことがあります。



- 散布作業は、日中を避け、涼しい朝、夕方に行なうようにしてください。気温が上がると薬液が空気中に上昇したり、気化します。また、体力も余計に消耗します。
- 薬液がからだにかかるのを避けるため、風下から風上に向かって進みながら散布してください。
- 風が横から吹く場合は、風上にスプレーヤを寄せるようにして走行してください。



- 薬液の散布はたいへん体力を消耗します。長時間の作業は避け、２時間を限度としてください。
- 作業をしながらの喫煙、飲食は絶対にしないでください。タバコや飲食物に付着した農薬がからだの中に入ることがあります。

薬液散布後の注意

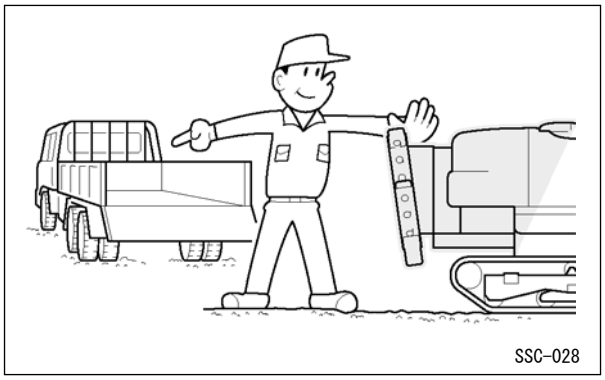
⚠ 警告

- 作業中あるいは作業終了後、からだに異常を感じたときは、すぐに医師に相談してください。使用していた農薬の種類を告げてください。

☆ 処置が遅れることにより、重大な薬害につながることがあります。

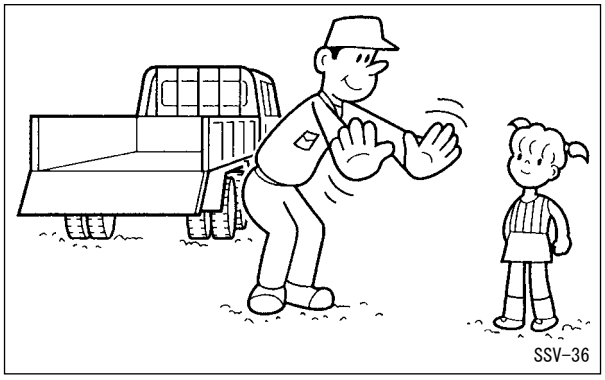
- ハウス内で防除作業を行なったときは、薬液が乾くまでは立入禁止の表示を置いてください。
- 作業中に着ていた服は、他の衣服とは別に洗ってください。

運搬

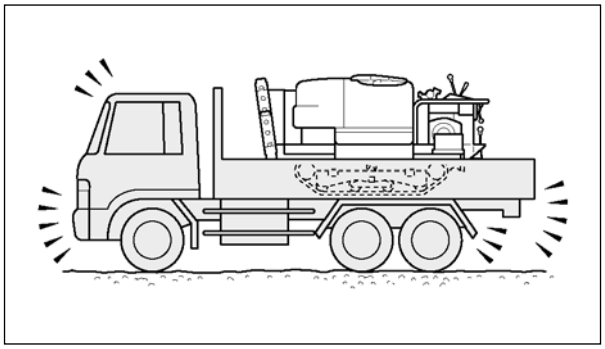


運搬時、スプレーヤを輸送機に積み降ろしするときは以下のことに注意してください。

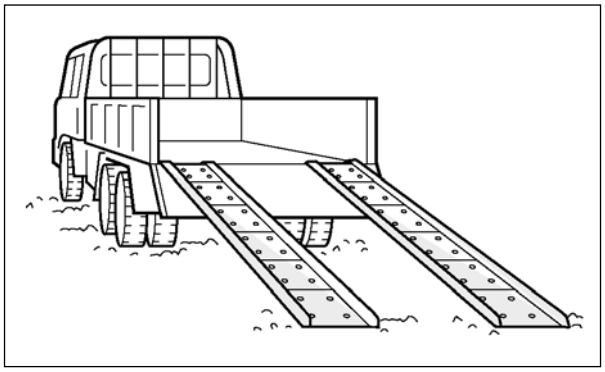
● 平坦地で誘導者の指示のもとで行なってください。



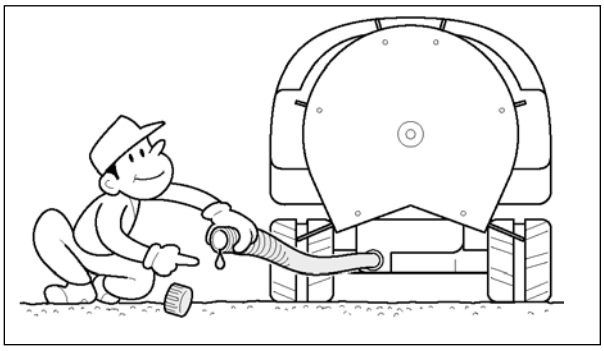
● 作業に関係のない人を近づけないでください。



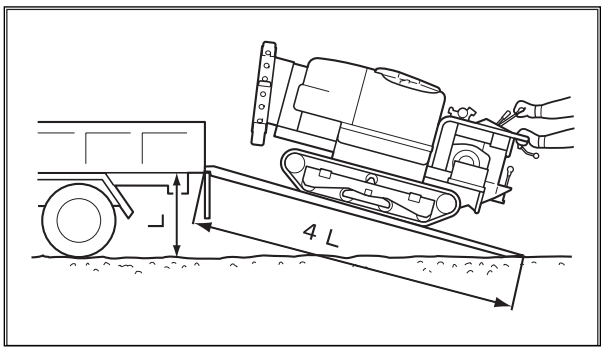
● 輸送機はスプレーヤの荷重に耐えられるものを使用してください。



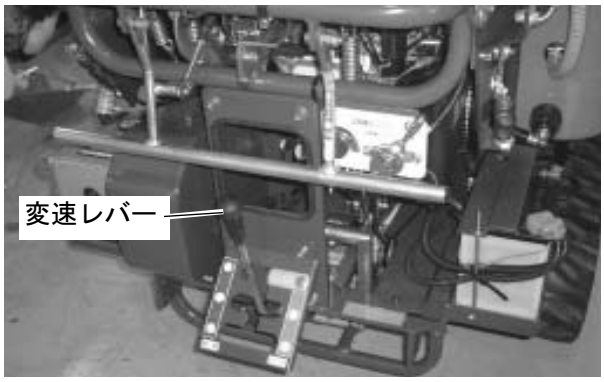
● 充分な強度と長さがあり、滑り止めの付いたアユミ板を使用してください。



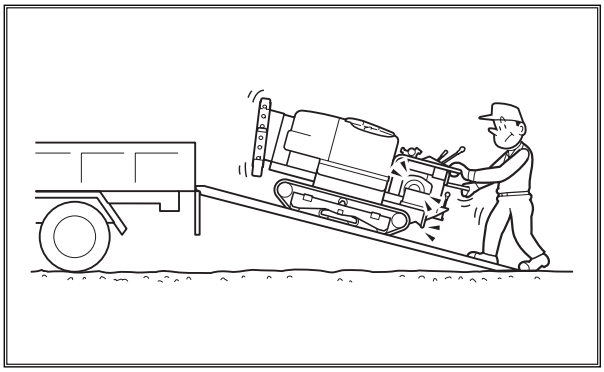
● 薬液タンクをカラにしてください。



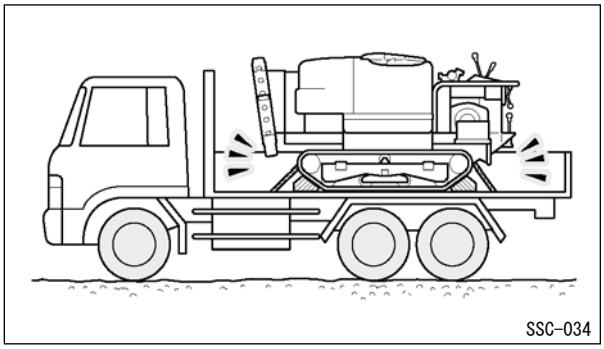
● アユミ板の長さは地上からトラック荷台床板までの高さの４倍以上の長さのものを使用してください。



● 積み降ろしするときに前進、後進する場合は、変速レバーを「１速」にしてください。絶対に急発進しないでください。

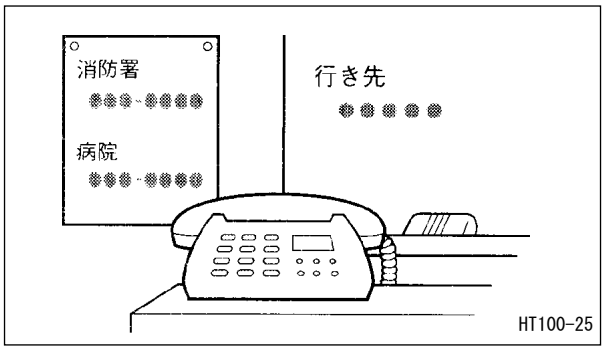


● 積み降ろしの途中でエンジンが停止した場合、クラッチ・ブレーキレバーで停止してください。その後、少しづつブレーキをゆるめ平坦地まで降ろしてください。

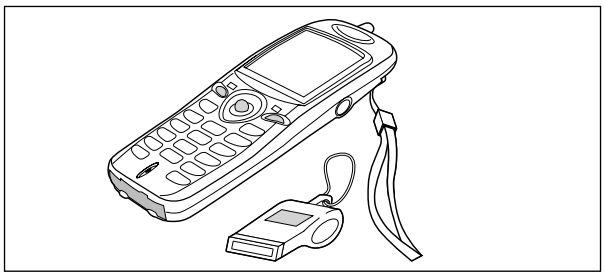


● 積み込んだ後､エンジンを停止し変速レバーを「１速」にして、ブレーキを掛けてください。
また、輪止めをして、ロープなどで固定してください。

万一の事故に備えて



HT100-25

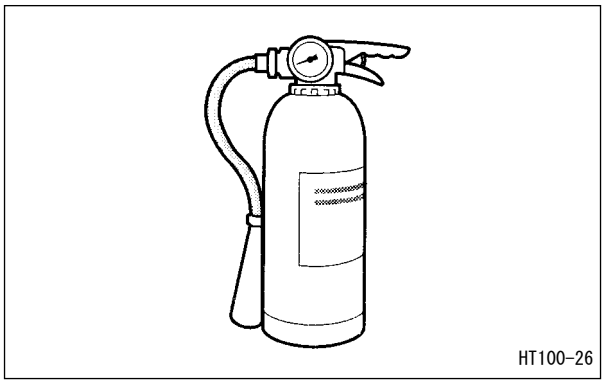


● 作業の前に

・万一の事故に備え、電話機のそばの目につきやすい場所に、医療機関、消防署（救急車）の電話番号を明確にしておいてください。
特に消防署への連絡の場合、救急車のための目標地点（住所、目標となる建造物など）も明確にしておくと、的確な連絡に役立ちます。

・単独で作業する場合、どこで作業を行なっているかが他の人にもわかるような方法（携帯電話を持つ、黒板に作業現場をメモするなど）を講じてください。負傷し動けなくなり帰れなくなった場合の対処として有効です。

・作業現場では、呼子（笛）を携帯してください。


HT100-26

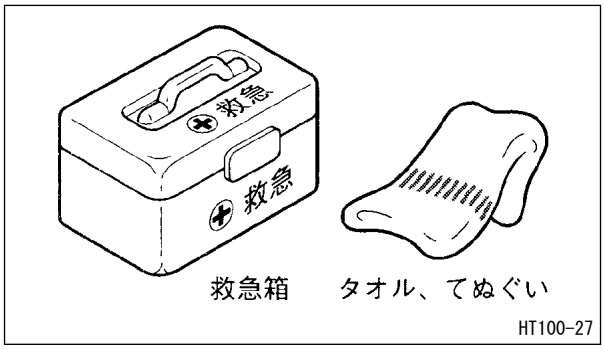
● 発火に対する備え

⚠ 警告

・エンジンから発火または排気口以外から発煙したら、まず機械から離れ、身体の安全を確保してください。
周囲に類焼しないようにシャベルで砂などをかけるか、または消火器で消火してください。

☆あわてて対処しようとすると、火災やその他の障害の拡大につながります。

・自分の身体を、火災その他の傷害から守るように注意してください。
草木などに類焼しないよう注意してください。シャベルで砂などをかけるか、または消火器で消火してください。

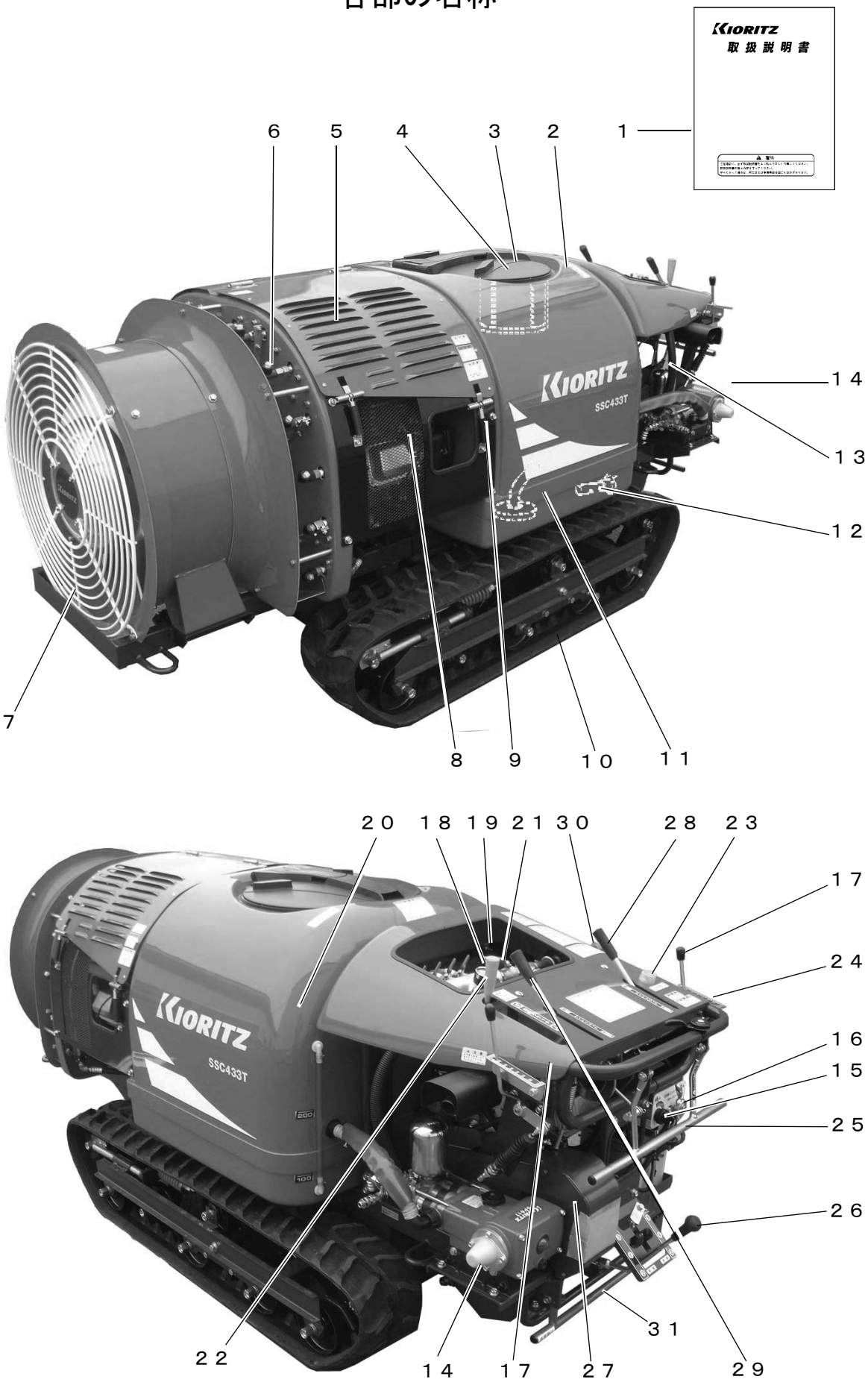


HT100-27

● ケガへの備え

・万一のケガへの備えとして、応急手当用品の入った救急箱を用意してください。
出血をともなうケガについては、止血用に汗拭き用のタオルや、てぬぐいなども有効ですので、常時余分に作業現場へ携帯することをおすすめします。

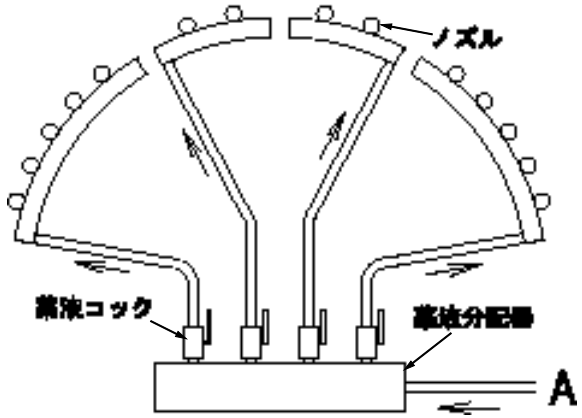
各部の名称

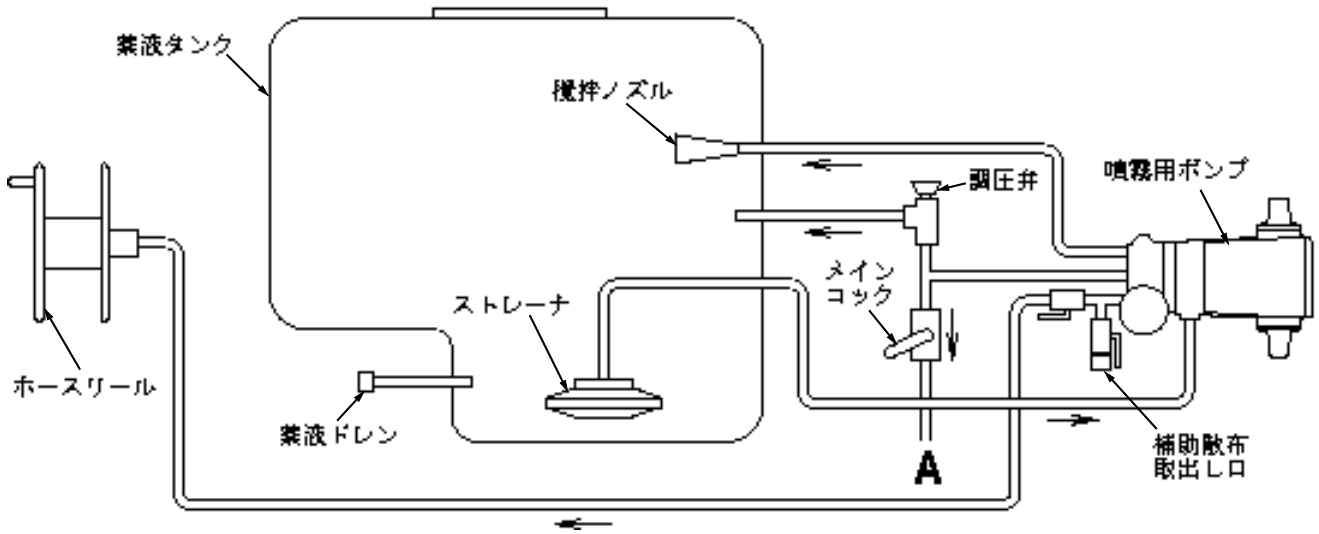

KIORITZ
取扱説明書
6
5
4
3
2
1
KIORITZ
SSC433T
14
13
12
7
8
9
10
11
20
18
19
21
30
28
23
17
24
16
15
25
26
22
14
17
27
29
31

各部の名称とその機能

１．	取扱説明書	＿＿＿機械を使用する前に必ず読んでください。
２．	薬液タンク	＿＿＿薬液をためます。
３．	薬液タンクふた	
４．	薬液タンクこし器	＿＿＿薬液給水時のゴミを取り除きます。
５．	エンジンカバー	＿＿＿送風機エンジンのカバーです。
６．	ノズル	＿＿＿薬液を噴霧します。
７．	吸込みカバー	＿＿＿送風機の異物の吸込みを防止するとともに、人や動物の接触を防ぎます。
８．	送風機エンジン	
９．	リコイルカバー	＿＿＿リコイルを引くときに外して使用します。
１０．	クローラ	
１１．	吸水ストレーナ	＿＿＿噴霧用ポンプのゴミの吸込みを防止します。
１２．	撹拌ノズル	＿＿＿薬液を撹拌します。
１３．	走行・ポンプエンジン	
１４．	噴霧用ポンプ	＿＿＿噴霧する薬液に圧力を与えます。
１５．	送風エンジンキースイッチ	＿＿＿送風エンジンの始動・運転・停止を行ないます。
１６．	送風エンジン スロットルレバー	＿＿＿送風エンジンの回転を調整します。
１７．	ノズル回転レバー	＿＿＿ノズルを回転させるときに使用します。〔Ｔタイプ〕
１８．	メインコック	＿＿＿ノズルへの吸水を一割で開・閉します。
１９．	ノズルコック	＿＿＿ノズルへの送水を開・閉します。
２０．	液量計	＿＿＿薬液の量を確認します。
２１．	圧力計	＿＿＿噴霧時の圧力を表示します。
２２．	噴霧用ポンプ クラッチレバー	＿＿＿噴霧用ポンプの運転を入・切します。
２３．	緊急停止スイッチ	＿＿＿緊急時にエンジンを停止するときに使用します。
２４．	走行・ポンプエンジン スロットルレバー	＿＿＿走行・ポンプエンジンの回転を調整します。
２５．	クラッチ・ブレーキレバー	＿＿＿走行のクラッチ・ブレーキを操作します。
２６．	変速レバー	＿＿＿走行速度を選択するときに使用します。
２７．	ベルトカバー	＿＿＿走行ベルト、噴霧用ポンプベルトのカバーです。
２８．	サイドクラッチレバー（右）	＿＿＿右に旋回するときに引きます。
２９．	サイドクラッチレバー（左）	＿＿＿左に旋回するときに引きます。
３０．	調圧ハンドル	＿＿＿噴霧時の圧力を調整します。
31.	緊急停止レバー	＿＿＿緊急時にエンジンを停止するときに使用します。

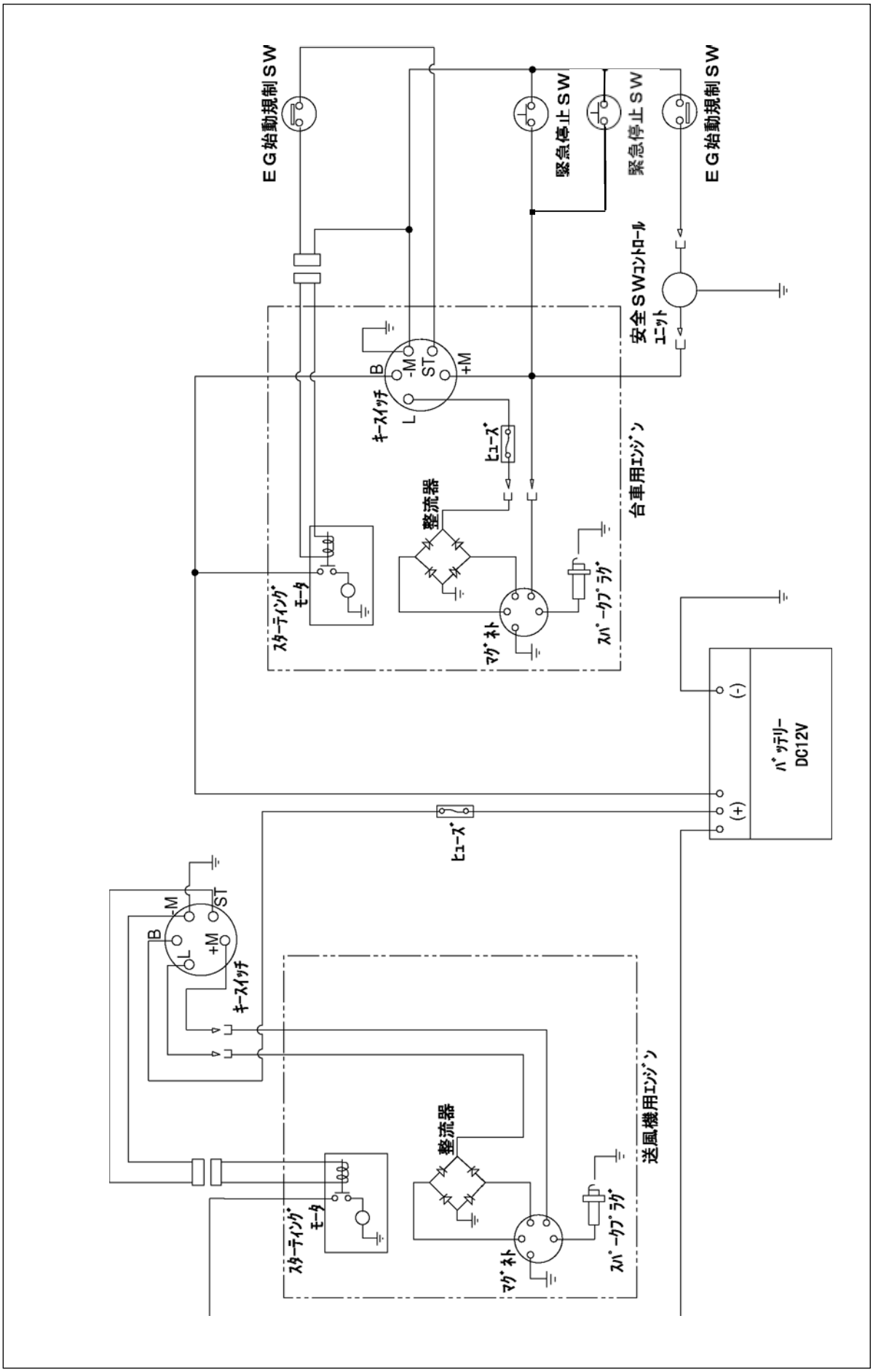
薬液配管図





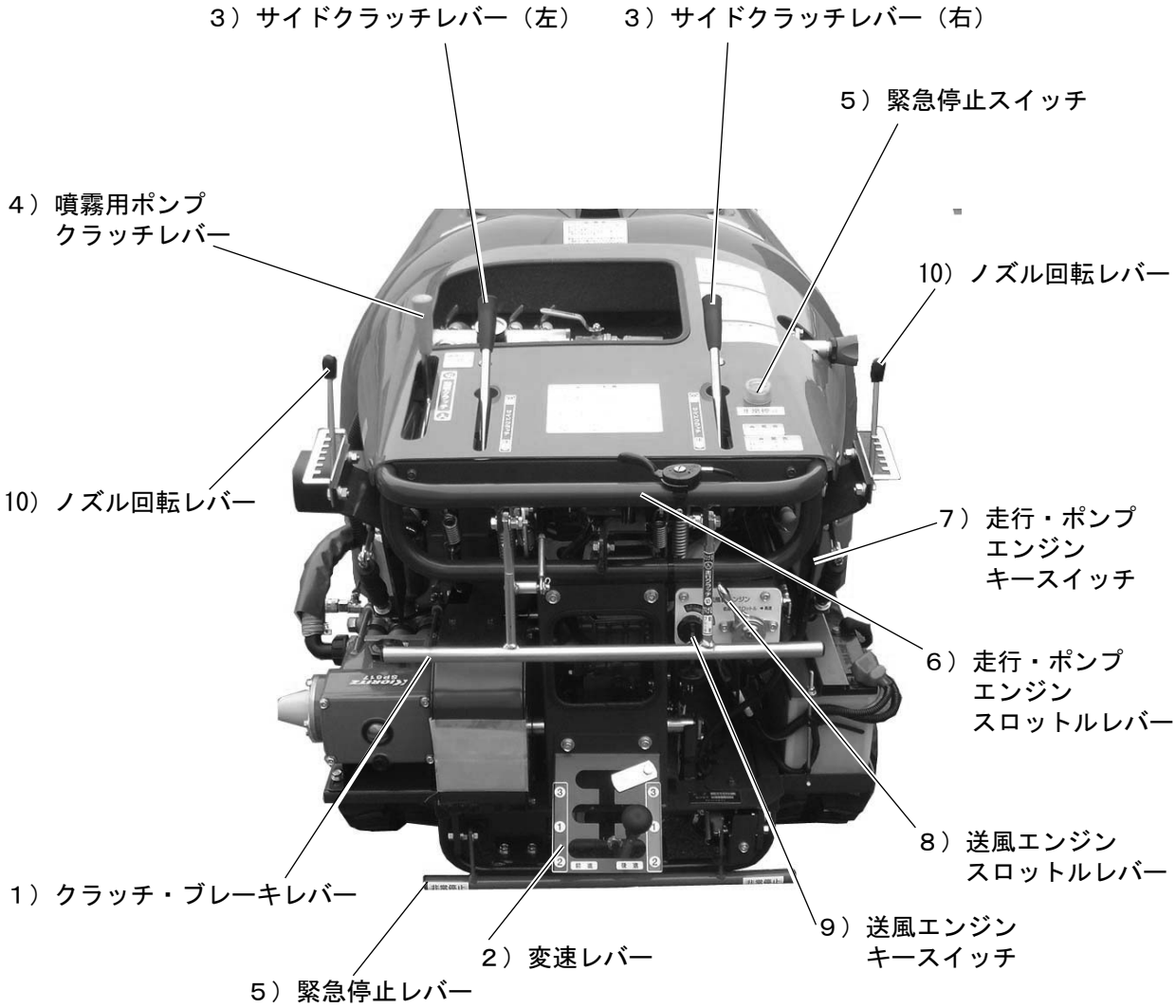
配管図の中の矢印は水又は薬液の流れる方向を表す

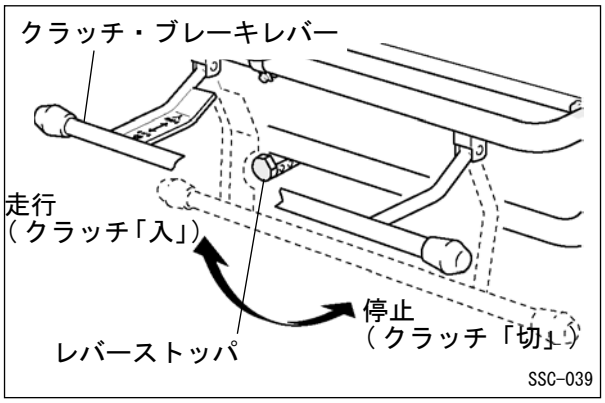
配線図


EG始動規制SW
緊急停止SW
緊急停止SW
EG始動規制SW
安全SWコントロール
ユニット
台車用エンジン
キースイッチ
B
-M
ST
+M
L
ヒューズ
整流器
スターティング
モータ
マグネト
スパークプラグ
ヒューズ
バッテリー
DC12V
(-)
(+)
送風機用エンジン
キースイッチ
B
M
ST
+M
L
整流器
スターティング
モータ
マグネト
スパークプラグ

各部の取扱いと操作

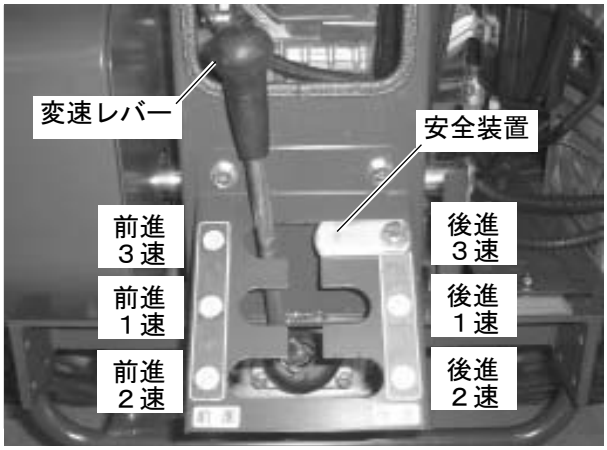
走行・エンジン関係





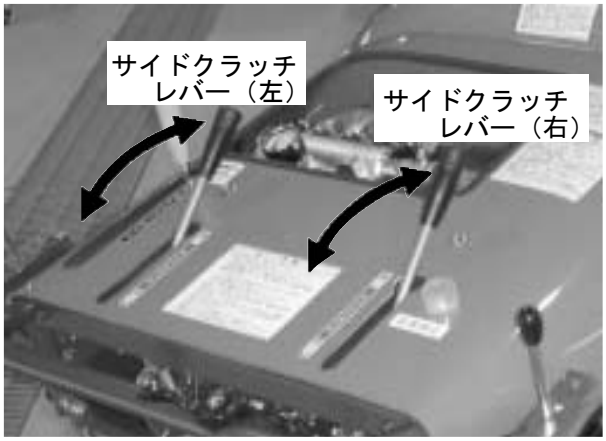
⚠ 警告

走行を停止するときは、必ずクラッチ・ブレーキレバーがレバーストッパに当たる位置にしてください。



⚠ 注意

- 高速での旋回は危険です。低速で旋回するようにしてください。
- レバーはストロークエンドまで確実に引いてください。
- 必要以上に強く引かないでください。



1）クラッチ・ブレーキレバー

このレバーで走行のクラッチ及びブレーキを操作します。

手前に引くことによりブレーキが解除され、クラッチが継がり走行となります。走行を停止するときは、前方に押すことによりクラッチが切れ、ブレーキが掛かります。

※注）このレバーは中間位置での使用をさけ、確実に引いたまたは、押した位置で使用してください。

⚠ 注意

急激な発進はしないでください。

2）変速レバー

作業に合った走行速度を選択するのに使用します。前後進３速の変速ができます。

（後進３速は安全装置が付いています。）

⚠ 注意

- 後進３速走行は、安全装置を解除し変速レバーを確実に入れて、後方の安全を十分に確認したうえで行なってください。
- 変速レバーは目的の位置に確実に入れてください。変速操作が確実に行なわれていないとギヤ抜けとなり危険です。

重要

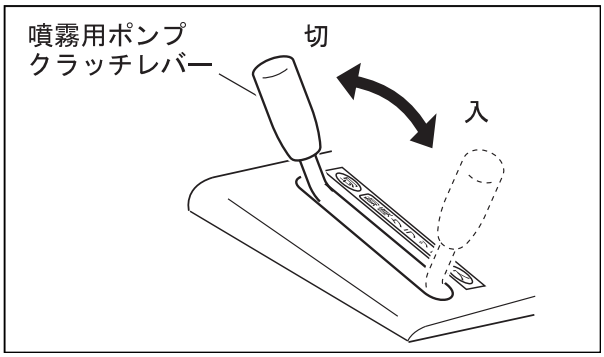
変速はクラッチ・ブレーキレバーを「切」にし、本機が停止してから行なってください。なお、変速がしずらいときは、クラッチ・ブレーキレバーを少し「入」「切」し、ミッション内のギヤを動かした後、クラッチ・ブレーキレバーを「切」にしてから変速してください。

3）サイドクラッチレバー

サイドクラッチレバーは、本機の左右の進行方向を変えるのに使用します。

右のレバーを手前に引けば右旋回となり、左のレバーを手前に引けば左旋回となります。

なお、左右のレバーを同時に引けば、本機は停止します。

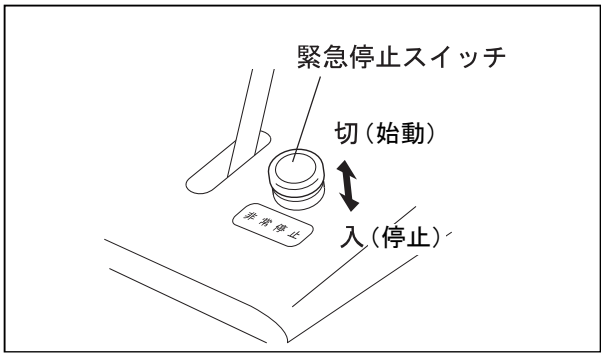


4）噴霧用ポンプクラッチレバー

噴霧用ポンプクラッチレバーは、噴霧用ポンプを動かすときに使用します。

レバーを手前に引くとポンプが回転し、レバーを前方に押すとポンプの回転が停止します。

重要
薬液タンクに清水または薬液が入っていないとポンプがカラ回転となり故障につながります。

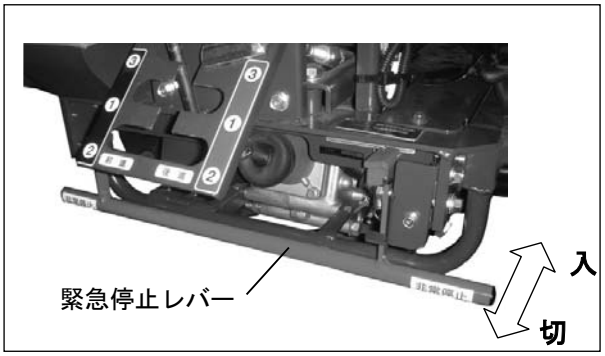


5）緊急停止スイッチ・緊急停止レバー

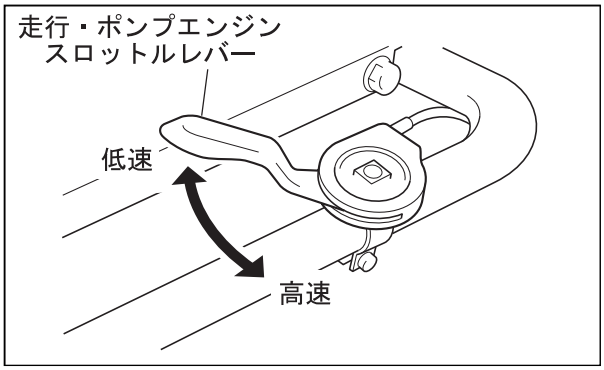
走行・ポンプエンジンを緊急停止させるときに使用します。

緊急停止スイッチ、及び緊急停止レバーを押すと、走行・ポンプエンジンが停止します。

エンジンを再び始動させるときは安全を確認し、緊急停止スイッチを押して切に戻してください。（緊急停止レバーは自動で切に戻ります。）通常使用時は、「切」状態で使用してください。

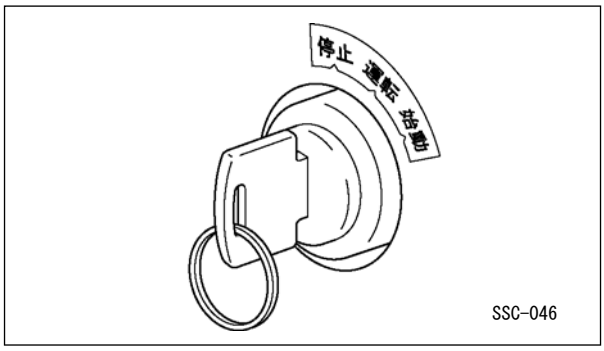


重要
・ 緊急停止スイッチ、及び緊急停止レバーはエンジン点火回路を遮断し、エンジンを停止します。ブレーキ装置と連動していませんので本機の走行の即時停止には結びつきません。よって、操作後は速やかにクラッチ･ブレーキレバーを停止位置にしてください。 ・ エンジン始動時は、緊急停止スイッチが「切」であることを確認してください。 ・ 通常エンジンを停止するときは、緊急停止スイッチ、及び緊急停止レバーは使用しないでください。



6）走行・ポンプエンジンスロットルレバー

このスロットルレバーで走行・ポンプエンジンの回転数を調整します。



7）走行・ポンプエンジンキースイッチ
走行・ポンプエンジンの始動・運転・停止するときに使用します。（※走行エンジンに付いています）

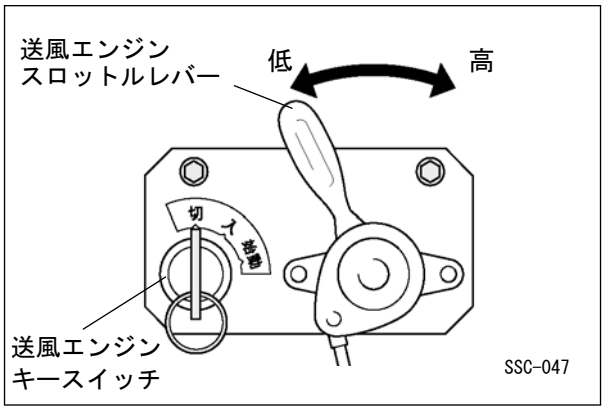
停止　エンジンの電源が切れている状態
・運転中のエンジンを停止させるときや、エンジンが停止しているときは、この位置にします。

運転　エンジンの電源が入っている状態
・エンジンを運転中はこの位置にします。

始動　エンジン始動用セルモータが回転する状態
・エンジンを始動させるときこの位置にキーをまわし、始動後、キーから手を離すと運転の位置にキーが戻ります。

※注）クラッチ・ブレーキレバーが走行位置にあるときは、エンジンは始動しません。

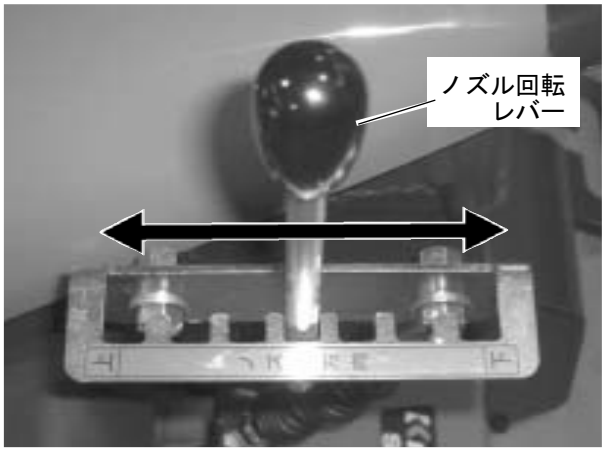
8）送風エンジンスロットルレバー及び
9）送風エンジンキースイッチ
送風エンジンスロットルレバー‥‥送風エンジンの回転を調整します。
送風エンジンキースイッチ‥‥送風エンジンの始動・運転・停止するときに使用します。



切（停止）エンジンの電源が切れている状態
・運転中のエンジンを停止させるときや、エンジンが停止しているときは、この位置にします。

入（運転）エンジンの電源が入っている状態
・エンジンを運転中はこの位置にします。

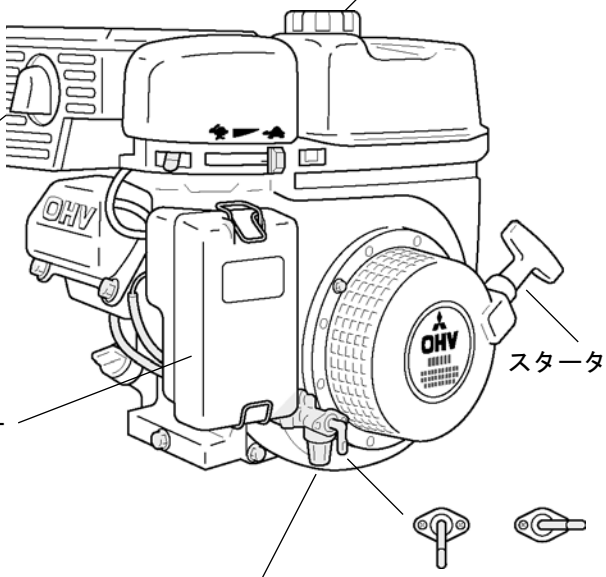
始動　エンジン始動用セルモータが回転する状態
・エンジンを始動させるときこの位置にキーをまわし、始動後、キーから手を離すと運転の位置にキーが戻ります。



10）ノズル回転レバー〔Ｔタイプ〕
ノズルを回転させるときに使用します。レバーを固定位置より外し、作業内容に合った位置までレバーを調整し、ノズル方向を変えます。

エンジン

詳細は付属のエンジン取扱説明書を参照してください。



燃料キャップ ..... 燃料は自動車専用無鉛ガソリンです。燃料を入れ終わったら、確実にキャップを締めてください。

マフラ

スタータグリップ.... エンジンを始動するときに使用します。
スタータグリップを確実に握り、勢いよく引っ張ります。

エアクリーナ

開　閉

燃料コック‥‥燃料タンクからキャブレタに燃料を入れたり切ったりするコックです。エンジンを始動するときは、コックを「開」にします。エンジンを停止させたときは、「閉」にします。

SSC-049

⚠ 警告

- マフラ・エアクリーナを取外してエンジンを運転しないでください。
- エンジン運転中や、停止直後のエンジン本体、マフラなどの過熱部には手を触れないでください。やけどをする恐れがあります。

⚠ 注意

- 本機を離れるとき、または使用しないときは各エンジンキーを抜いておいてください。
- エンジンを始動させないときは、始動しないエンジンのキーを必ず停止の位置にしてください。

重要

- 早期のバッテリ上がりや、セルモータの過熱防止のため連続して５秒以上セルモータを使用しないでください。
- セルモータを５秒使用してもエンジンが始動しない場合は、キーを運転の位置に戻し、１５秒以上待って再度セルモータを使用してください。

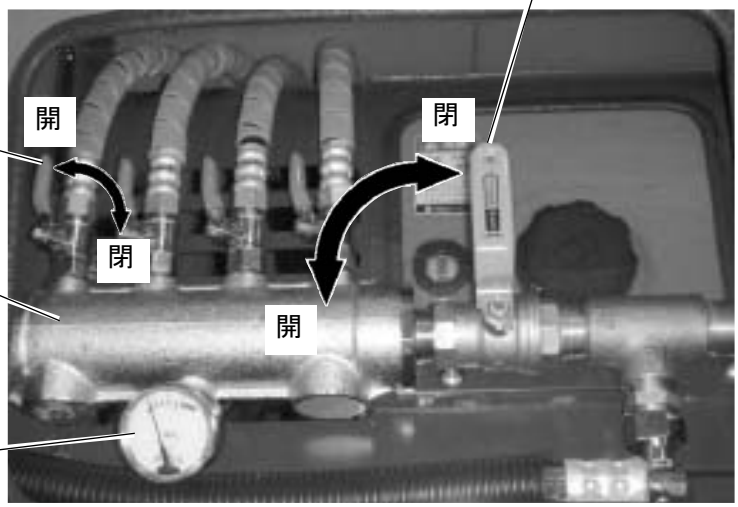
コック・噴霧関係

1）調圧ハンドル



メインコックレバー‥‥ノズルへの送水を一括で開・閉します。

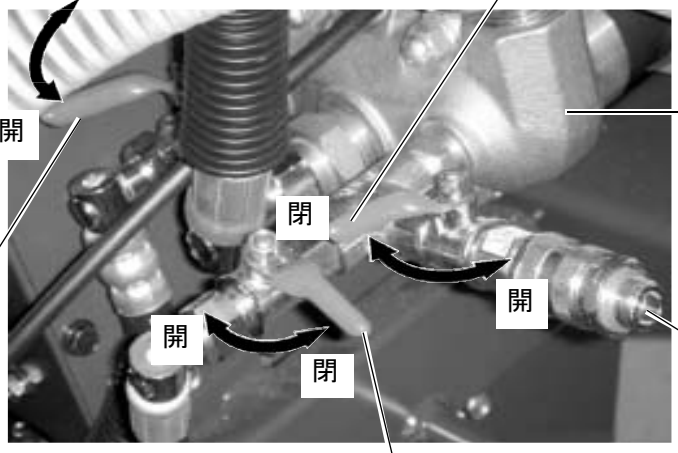
ノズルコックレバー‥‥分割ノズルへの送水を開・閉します。



薬液分配器

圧力計‥‥噴霧時の圧力を表示します。

補助散布用コック‥‥ジェットポンプ（給水ポンプ，オプション)、補助散布への送水を開・閉します。

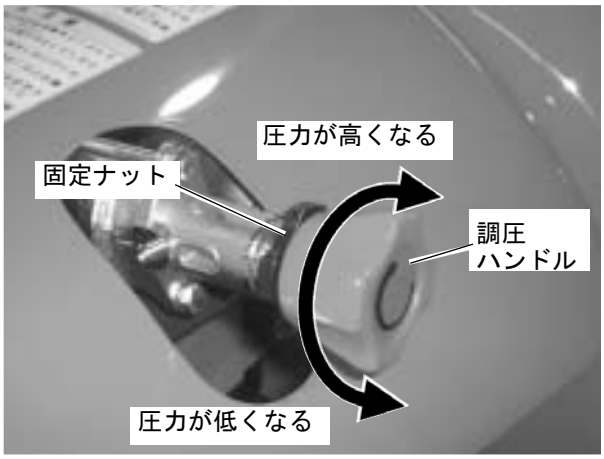


ポンプ

薬液撹拌用コック‥‥撹拌ノズルへの送水を開・閉します。

補助散布取出口

ホースリール用コック‥‥ホースリールへの送水を開・閉します。



1）調圧ハンドル
- 高圧運転時の圧力を調整します。
- 圧力調整後は、固定ナットで固定します。
- 使用最高圧力は3．5ＭＰａ（３５ｋｇｆ／ｃｍ^2）です。

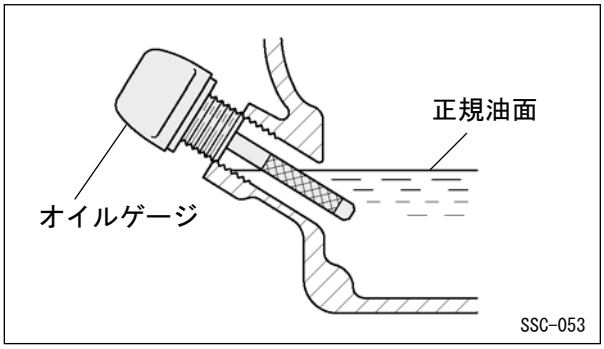
使用準備

クラッチ・ブレーキの確認
- クラッチが確実に接続し、滑らないこと。
- ブレーキが確実にきくこと。

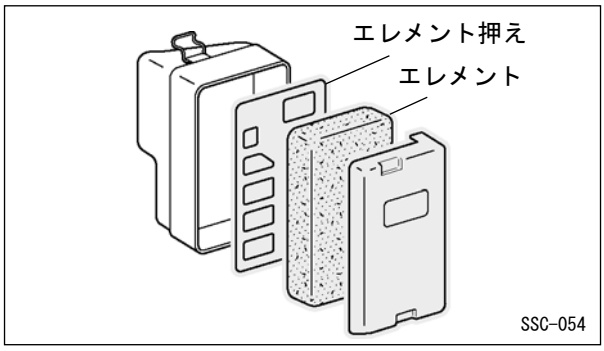
クローラの点検
- クローラに亀裂、損傷のないこと。
- クローラの張りは適正となっていること。

シャーシの点検
- 各締付ボルトにゆるみのないこと。
- 異常な変形や亀裂のないこと。

エンジンオイルの点検
（走行・ポンプエンジンと送風エンジンの２ヶ所）
- オイル量を点検し、正規油面まで補充してください。汚れている場合は、交換してください。

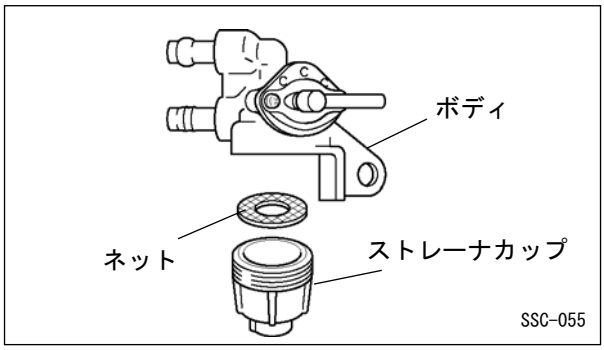


燃料タンクの点検
（走行・ポンプエンジンと送風エンジンの２ヶ所）
- 燃料は自動車用無鉛ガソリンです。
- 燃料に水分やゴミが入っていると、エンジン不調となります。きれいな新しい燃料を使用してください。



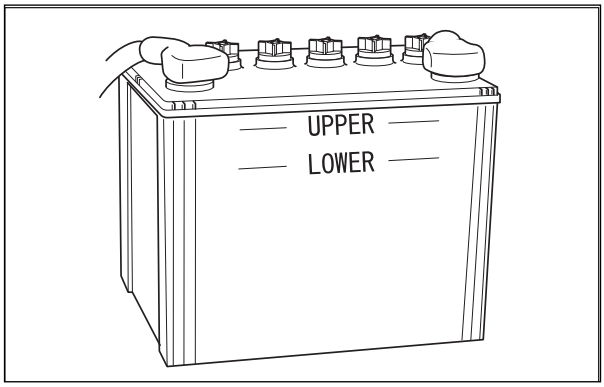
エアクリーナの点検
（走行・ポンプエンジンと送風エンジンの２ヶ所）

- エレメントの汚れがひどいとき、およびオイル分がなく乾いているときは、白灯油で洗浄後、エンジンオイルに浸し、片手で固く絞ってください。
- 薬液噴霧作業時、風向きや作業形態によりエンジンが薬液を吸い込み、不調になることがありますので作業前には、エレメントの汚れ落としと同時に薬液（水分）の除去を行なってください。



燃料コックの点検
（走行・ポンプエンジンと送風エンジンの２ヶ所）

- 燃料コックのストレーナカップを取外し、カップ内の沈殿物を除去し、ネットも清掃します。



バッテリの点検

- バッテリの液量
  バッテリ液の規定量は、注入口内の液面指示までです。少ないときは蒸留水を補充します。
- バッテリ液の比重
  バッテリ液の比重は、温度２０℃で１．２８が完全充電状態です。
- ターミナルとケーブルの結線
  バッテリケーブルがターミナルに完全に接続しているか、ゆるみがないか点検し充分締付けます。

重要

使用済のバッテリの処理は、購入した販売店に依頼してください。

バッテリの清掃

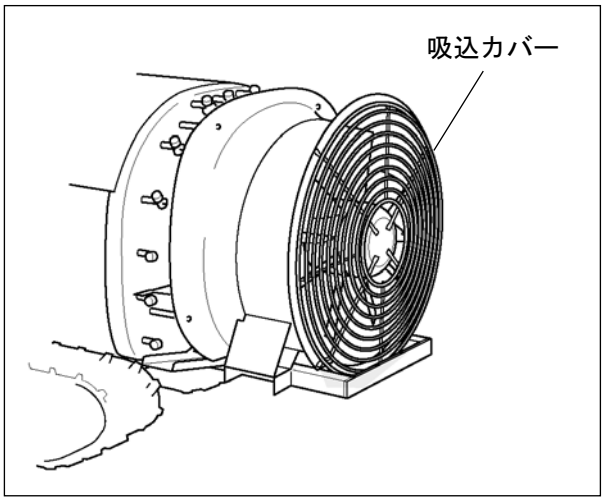
- バッテリの上面と側面またターミナルが汚れている場合は、水またはぬるま湯で清掃します。ターミナルは防錆のため、ワセリンかグリースを薄く塗っておきます。
- 充電器を使用するときの注意
  ＡＣジェネレータを使用していますので、急速充電器で大電流を流しますと、ジェネレータ内部のシリコンダイオードを焼損します。

⚠ 注意

充電器で充電するときは必ずバッテリのターミナルを外してください。

補充電時の注意

安全（防錆・防酸）取扱い	● 充電中、充電直後は、風通をよくし、火気〔裸火、高熱の接近〕厳禁。 ● 車載のまま補充電するときは、本機の負荷を切り、エンジンを停止してアース側のターミナルを外しておく。 ● 充電器のスイッチを切ってから、充電クリップの接続・取外しを行なう。 ●充電中にバッテリテスタを使用してはいけない。 ● 充電中、充電直後に、バッテリに近づくときは、保護めがねをかけて、できるだけ顔をバッテリから遠ざける。
一般的な注意	● 外せる液口栓は、外して紛失しないように保管する。 ● 液面が低すぎるバッテリは、充電前に補水する。 ● 充電器とバッテリは、絶対に逆接続しない。 ● 液温が制限温度をこえる恐れがあるときは、電流を半減するか、充電を一時中止して液温のさがるのをまつ。 ● 充電後、液口栓を確実に取付け、バッテリに清水をそそいで、硫酸分を洗い流した後、乾燥させる。



送風機吸込み口の点検

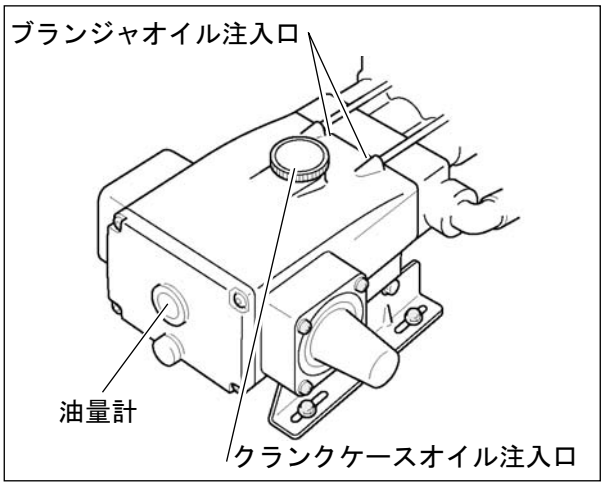
● 木の葉や小枝およびその他の異物が詰まっていると、送風効果を落としますからその都度取除いてください。また送風機内部に入っている場合には、吸込カバーを外して取除きます。（必ずエンジンを停止し、ファンが確実に止まっていることを確認してから行なってください。）

ノズルの配置と締付状態の確認

● ノズルを全部点検し、合わせて締付状態の確認をし、樹形に適したノズル配置を決めてください。具合の悪いままで行なうと、散布作業のときに、大きな能率低下となり附着性能にも支障をきたします。

ノズルコックの開閉確認

● ノズルコックレバーが軽く動くことを確認します。

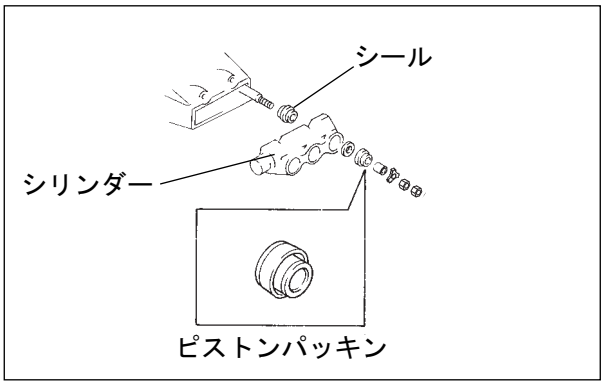


ポンプの点検

● プランジャ
プランジャ部分へオイルを給油してください。
給油は、付属のオイラで、プランジャオイル給油口から行ないます。（１０滴程度）

● クランクケースオイル
油量計の油面がクランクケース中央にあることを確認します。不足している場合には､クランクケースオイル給油口よりオイルを補充します。
指定オイル：エンジンオイル１０W－３０

● ポンプベルト
ベルトの張り具合、キズなどを確認します。



重要

ピストンパッキンおよび水シールの交換のときに向きを間違えないようにしてください。

ピストンパッキン・水シールの交換

● 長時間使用し、吸水しなくなったり、圧力が上がらなくなったときは、ピストンパッキン・水シールが摩耗している可能性があります。
シリンダを外し、ピストンパッキン・水シールを交換してください。

運転

● 使用準備、各部の点検が終わってから運転します。

エンジンの運転

⚠ 注意

周囲の安全を確認の上、行なってください。

・ クラッチ・ブレーキレバーを停止位置とします。なお、クラッチ・ブレーキレバーが手前に引かれている状態ですと、リコイルスタータでもエンジンキースイッチでも走行・ポンプエンジンは始動しません。

リコイルスタータ　　エンジンキースイッチ

走行・ポンプエンジンの運転

走行・ポンプエンジンの燃料コックを開にする

⇓

走行・ポンプエンジンスロットルレバーを約 1/3 開の位置にする

⇓

（気温が低く始動しにくいとき）
走行・ポンプエンジンチョークを閉にする

⇓

走行・ポンプエンジンキースイッチを運転にする

⇓

走行・ポンプエンジンのスタータグリップを勢いよく引く

⇓

走行・ポンプエンジンキースイッチを始動の位置に回し、エンジンが始動したら手を離す

（エンジンが始動したら）

⇓

走行・ポンプスロットルレバーを低速位置にし、暖機運転を行なう

⇓

（チョークを閉にしたときは、徐々に開にします）

走行

変速レバーを使用する速度にセットする

⇓

走行・ポンプエンジンスロットルレバーを適当なエンジン回転位置に合わせる

⇓

クラッチ・ブレーキレバーを手前にゆっくり引く

⇓

本機が走行を開始したら、完全に手前に引ききる

⇓

サイドクラッチレバーで走行の進路を変更し決定する

走行停止

クラッチ・ブレーキレバーを前に押して、本機を停止させます

噴霧用ポンプの運転

噴霧用ポンプクラッチレバーを手前に倒すことにより、噴霧用ポンプの運転が開始します

噴霧用ポンプの停止

噴霧用ポンプクラッチレバーを前方に倒すことにより、噴霧用ポンプの運転を停止します

走行・ポンプエンジンの停止

走行・ポンプエンジンスロットルレバーを低速位置にし、エンジンの冷却運転を行なう

⇓

走行・ポンプエンジンキースイッチを停止にする

⇓

走行・ポンプエンジン燃料コックを閉にする

送風エンジンの運転

送風エンジンの燃料コックを開にする

⇓

送風エンジンスロットルレバーを約 1/3 開の位置にする

⇓

（気温が低く始動しにくいとき）
送風エンジンチョークを閉にする

⇓

送風エンジンキースイッチを始動の位置
に回し、エンジンが始動したら手を離す

⇓

送風エンジンスロットルレバーを低速位置にし、暖機運転を行なう

⇓

（チョークを閉にしたときは、徐々に開にします）

送風機の運転

送風エンジンスロットルレバーを高速位置にする

送風機の停止

送風エンジンスロットルレバーを低速位置にし、エンジンの冷却運転を行なう

⇓

送風エンジンキースイッチを停止にする

⇓

送風エンジン燃料コックを閉にする

⚠警告
・ 車両の寿命や維持費は取扱い方（特に運転操作のしかた）により異なってきます。 急発進、急制動、高速急旋回等は、危険ですので絶対に行なわないでください。 ・ 最初走り出す前には、必ずブレーキの作動を確認してください。 ・ 下り坂の運転 急な坂を下るときは前もって低速に変速しておき、ゆっくりに走行します。 坂の途中でクラッチを切ったり、変速レバーを動かすと危険です。 急な上り坂のときも同様に前もって切替えておきましょう。 坂を降りるときの速度は、坂を登る速度よりも遅くしてください。

薬液散布

散布圧力調整

● 調圧ハンドルにより散布計画のノズル圧力に調整します。

ノズルコック

・薬液管が左側、左上、右上、右側の４分割になっており、これに合わせてノズルコックがつけてあります。
・それぞれ、作業に合わせてノズルコックを「入」にします。

メインコック

・メインコックレバーを「切」にしますとノズルコックを「入」にしても、ノズルからの薬液は出ません。
・薬液管の４ヶ所から同時に散布する場合利用しますと便利です。この場合ノズルコックは全部「入」にしておきます。
・各々のノズルコックを使用する場合は、メインコックは「入」にしておきます。

散布作業

散布開始

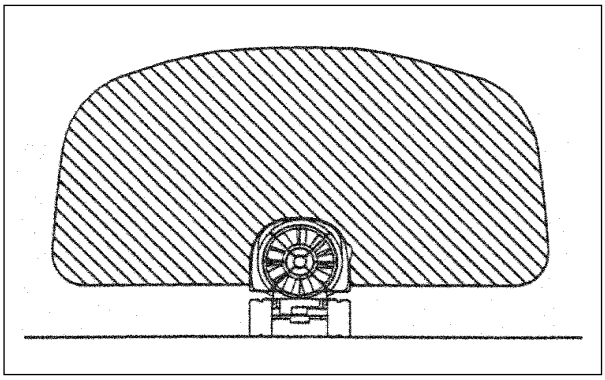
● 薬液タンクに散布に必要量の薬液を入れます。
● 走行・ポンプエンジン、送風エンジンを始動します。
● 走行速度を変速レバーでセットします。
● 走行・ポンプエンジン、送風エンジンを所定の回転に合わせます。
● 噴霧用ポンプクラッチレバーを「入」にします。
● クラッチ・ブレーキレバーを引いて、走行を開始します。
● メインコックまたはノズルコックにより薬液を散布します。

散布終了

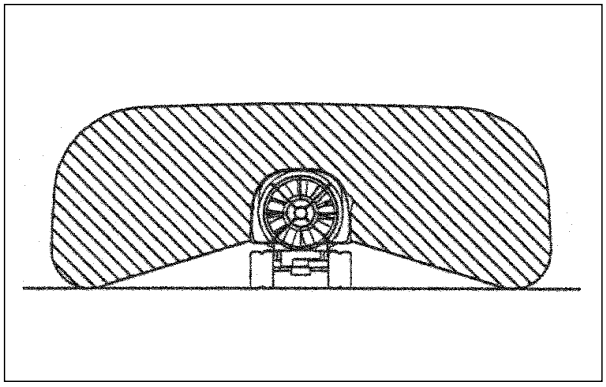
● メインコックまたはノズルコックにより薬液の散布を停止します。
● 噴霧用ポンプクラッチレバーを「切」にします。
● クラッチ・ブレーキレバーを押して走行を停止します。
● 走行・ポンプエンジン、送風エンジンを低速にします。
● 走行・ポンプエンジン、送風エンジンを停止します。

樹形に合った散布例

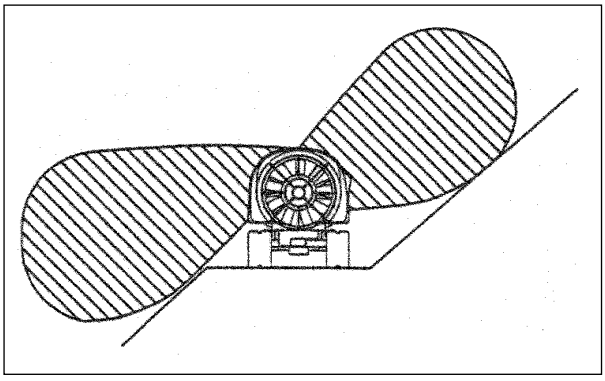
左図は主な散布例であり、その他にもノズルの方向やサイズの組み合わせで、作業内容に合った散布方法を選べますので参考にしてください。



● ノズルを放射状に向け、下部案内板を水平にし散布します。

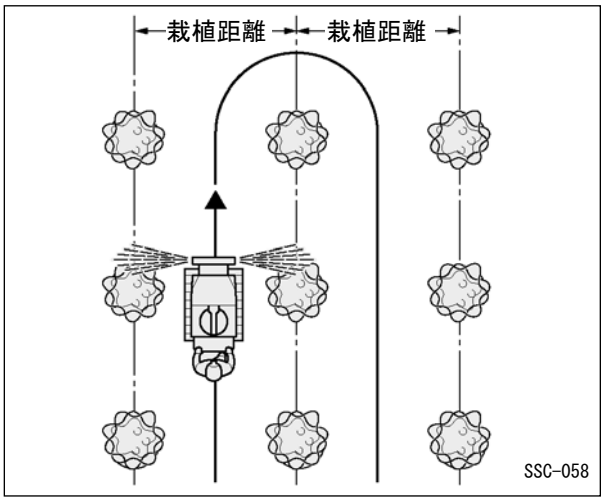


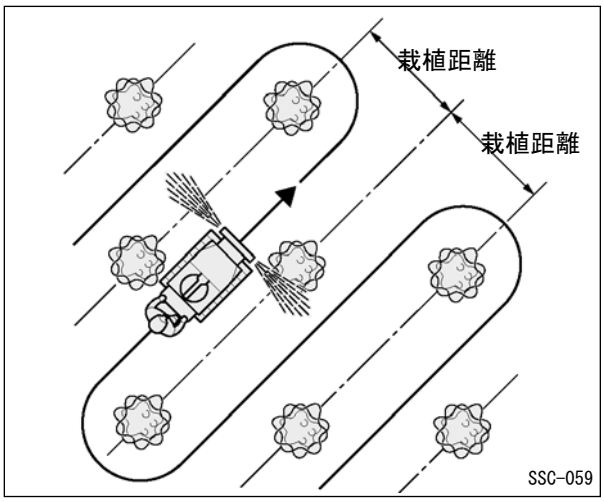
● 棚仕立のような場合は、下部案内板を下方にし、下の枝葉まで散布します。

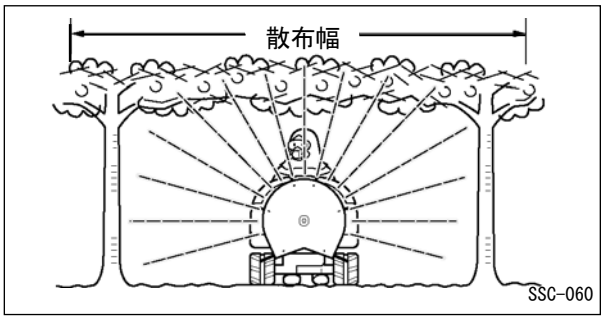


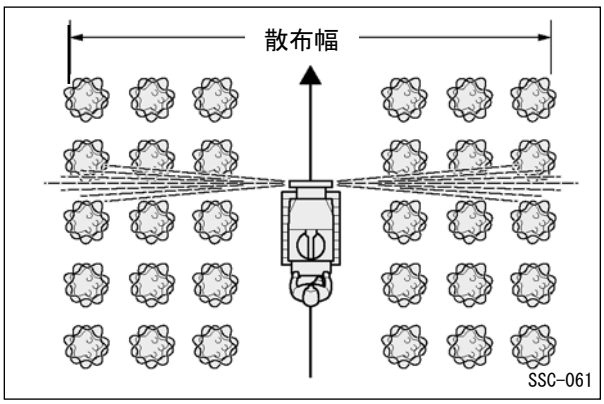
● 傾斜地では、左右の散布角度を変えて散布します。〔Ｔタイプ〕

重要
傾斜地での散布はノズル回転レバーを操作しますと、左右の散布パターンを手元で調整できます。（２４ページのノズル回転レバーの項を参照）









散布計画

薬液の散布に当っては予め綿密な計画と手順を決めることが必要です。

- 散布する薬剤の種類と散布量を決めます。
- 木の栽植距離によって散布幅を決めます。
- 両側散布か、片側散布かを決めます。
- 木の大きさ、葉の茂り具合や風の強さや方向によってノズルの種類、案内板の向きと位置、走行道順を選定します。

これらの条件をよくまとめてから、次の散布諸元を決定します。

散布諸元

散布量：Ｌ／１０ａ（リットル／１０アール）

・ 散布対象となる病害虫の種類と使用する薬剤の濃度、種類、その他によって決めます。

散布幅：ｍ（メートル）

・ 各列ごとの樹間散布のときは栽植距離を散布幅とします。
・ 片側散布では散布幅は栽植距離の１／２となります。

走行速度：ｋｍ／ｈ（キロメートル／時）

・ 散布に最も適切な走行速度は、送風性能と樹形整枝の状況などから決めなければなりませんが、速度を遅くすると薬液の到達・浸透性は大きく、早くすれば小さくなります。従って果樹の葉の繁茂状態に合わせ走行速度を変化させて、最も効果的な走行速度を決めることが必要です。通常、１～３ｋｍ／ｈ程度が適正な散布走行速度です。

散布走行速度は、通常次の計算式で表されます。

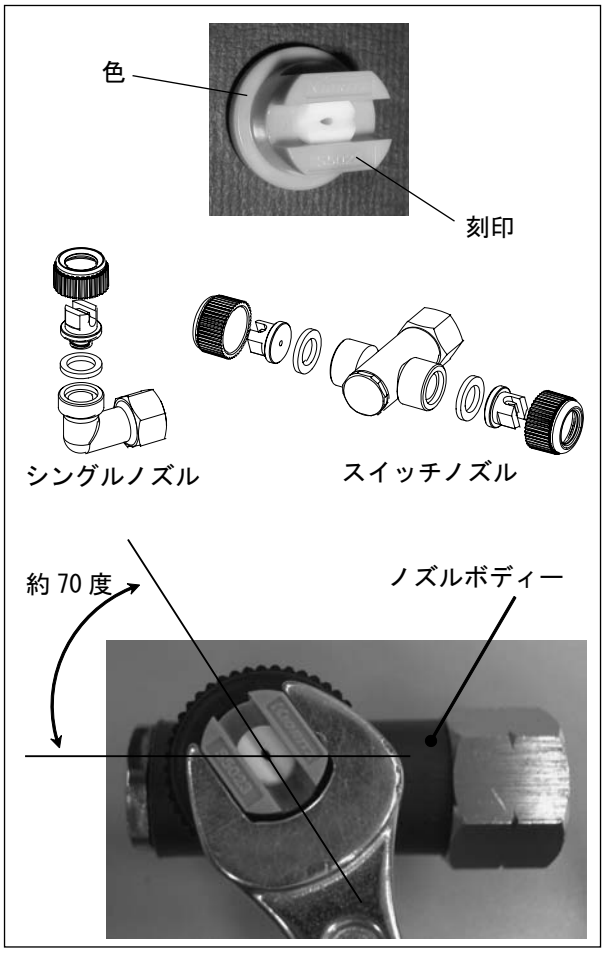
$$\text{散布走行速度（ｋｍ／ｈ）} = \frac{\text{ノズル総吐出量（Ｌ／ｍｉｎ）} \times 60}{\text{散布幅（ｍ）} \times \text{散布量（Ｌ／１０ａ）}}$$

ノズルの総吐出量：Ｌ／ｍｉｎ（リットル／分）

- ノズルの総吐出量とは配置した全ノズルから毎分吐出する総量で、使用される個々のノズルの穴径、中子の種類、および個数によって算出します。
- ノズルの配置は散布の対象となる樹形、整枝の状態によって異なりますからよく木の状態を観察して密生している部分には吐出量の多いノズルを配管して集中的に、また平均に薬液が付着するよう考えることが大切です。
- ノズルの吐出量はノズル性能表を使って算出してください。
- ノズル圧力は、標準で 1.5 MPa（15 kgf/cm^2）の圧力です。
  使用圧力 1.5 MPa（15 kgf/cm^2）のノズル性能表を読んでください。
- ノズル総吐出量を越えないようノズルの数、個々のノズルの組合わせを選んでください。

ノズルの選択

- ノズルは吐出量を変えるとき、噴霧の拡散角度を変えるときに交換します。
- ノズルは色または刻印で識別します。



ノズルの構成

- ノズルはシングルノズルボディー、スイッチノズルボディーにパッキン、ノズル、キャップの順に組立てられています。

ノズルの取付け

- ノズルの噴霧パターンが扇形状のため、隣接する噴霧同士が衝突しない様、角度の調整が必要です。
- ノズルを取り付けた後に、ノズルボディーから見て左右どちらか同一方向に約 70 度傾くように 10 ㎜のスパナで調整してください。

●ノズルには次の種類があります。

ノズル性能表（ノズル１個当りの吐出量）

ノズル型式	ノズル色	ノズル刻印	ノズル圧力 MPa(kgf/cm^2)			拡散角度
			1.0(10)	1.5(15)（標準）	2.0(20)	
KDN S1	緑	S5023	1.88	2.30	2.66	50°
KDN S2	黄	S5030	2.45	3.00	3.46	50°
KDN S3	青	S5038	3.10	3.80	4.39	50°
KDN S4	橙	S5049	4.00	4.90	5.66	50°
KDN S5	灰	S7018	1.47	1.80	2.08	70°
KDN S6	茶	S7021	1.71	2.10	2.42	70°
KDN S7	黒	S7029	2.37	2.90	3.35	70°
KDN S8	赤	S7037	3.02	3.70	4.27	70°

●ノズルの総吐出量は次の式で計算してください。

ノズル総吐出量（Ｌ／ｍｉｎ）

$$= \frac{\text{散布速度（ｋｍ／ｈ）} \times \text{散布幅（ｍ）} \times \text{散布量（Ｌ／１０ａ）} \times \text{圃場係数（０．６～０．８）}}{６０}$$

散布計画例

散布量５００／１０ａ…… 防除暦などからの１０ａ当たりの散布

散布幅６ｍ…… 樹間距離などから決まります。

（片側散布の場合は１／２となります。）

散布速度０．９ｋｍ／ｈ… 機種形式・対象作物によって変わりますが、通常低速を選びます。

圃場係数０．７…… 圃場条件により選定します。

０．６：軟弱地、傾斜地の多い圃場

０．７：草生地、標準的な圃場

０．８：乾燥した平地、直線走行の長い圃場

◎１０ａ当り散布量の計算は下記の式にて算出します。

$$\text{１０ａ当り散布量（Ｌ／１０ａ）} = \frac{\text{ノズル総吐出量（Ｌ／ｍｉｎ）} \times ６０}{\text{散布幅（ｍ）} \times \text{散布速度（ｋｍ／ｈ）} \times \text{係数（０．６～０．８）}}$$

○ ノズル総吐出量の計算例

ノズル総吐出量（Ｌ／ｍｉｎ）

$$= \frac{0.9\text{（km／h）} \times 6\text{（m）} \times 500\text{（L／10a）} \times 0.7}{60} = 31.5\ \text{L／min}$$

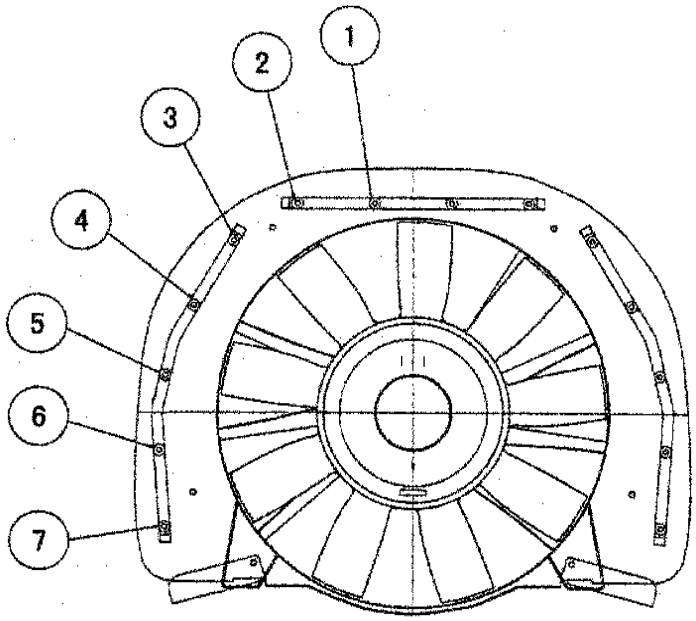
ノズル圧力１．５ＭＰａ（１５ｋｇｆ／ｃｍ^2）で散布するときのノズル組合わせを下に示します。

ノズル型式	個　数	吐出量（Ｌ／ｍｉｎ）
KDN S1	６	１３．８
KDN S2	８	２４．０
計	１４	３７．８

なお不用なノズルにはノズルプラグを使用してください。

このような方法でノズルの組合わせを求めます。

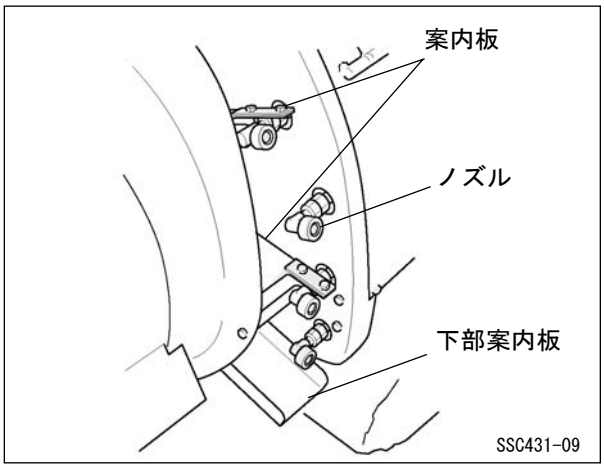
ＳＳＣ４３３ノズル配列表



色別	ノズルNo.		1	2	3	4	5	6	7	両側吐出量 (L/min)
黒＋黒	噴頭	型　式	S1	S2	S2	S2	S2	S1	S1	
		色	緑	黄	黄	黄	黄	緑	緑	
	吐出量	1.5 MPa (15 kgf/cm^2)	2.3	3.0	3.0	3.0	3.0	2.3	2.3	37.8
黒＋赤	噴頭	型　式	S5	S5	S6	S6	S2	S1	S1	
		色	灰	灰	茶	茶	黄	緑	緑	
	吐出量	1.5 MPa (15 kgf/cm^2)	1.8	1.8	2.1	2.1	3.0	2.3	2.3	30.8

スイッチノズル　１，２，３，４

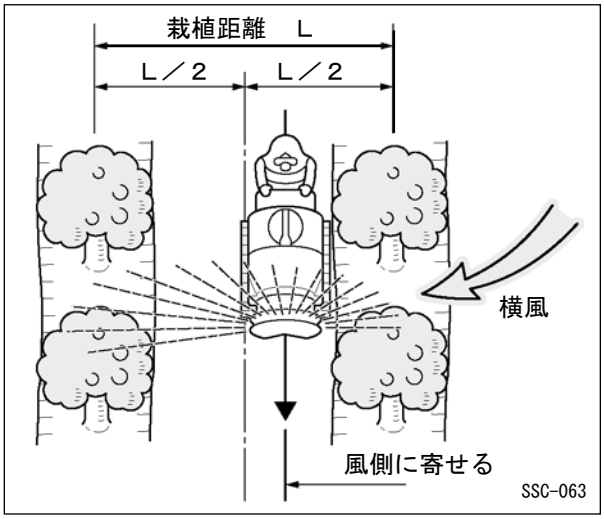
散布方法



案内板の調整

● 下部案内板はＳ、Ｔタイプにあります。作業内容に合わせ調整します。

● 案内板はＴタイプにあります。ノズルに組付けられており連動しています。ノズル回転レバーを操作して方向を調整します。



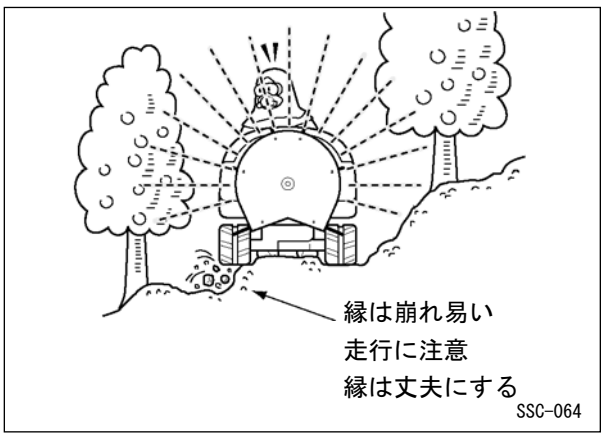
自然風に対して

● 薬液の到達性は自然風の影響で大きく変化しますので、その日の気象状態をよく考えて散布速度や走行道順などを定めます。

● 風向には向風、追風、横風などの場合がありますが、横風に対しては風上に機体を寄せるようにして走行します。

重要

できるだけ無風時（早朝やタ方など）を選んで散布しますと到達距離は増します。



走行道路

● 農道および散布道などの幅は最低１．５ｍ必要です。

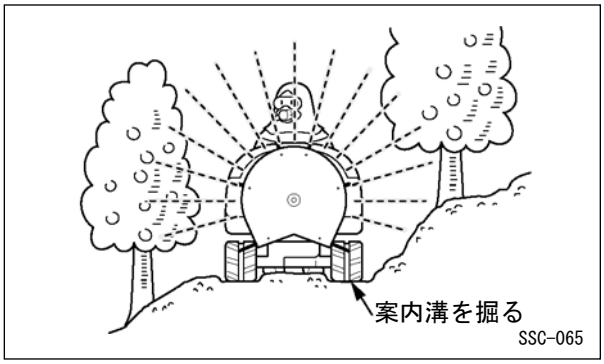
● 傾斜地等のテラス式（等高線方式）の道路は路肩が崩れやすいので走行に注意してください。

● 壌土だけの道路では特に降雨後などスリップしたり崩れたリしやすいので、日頃砕石や砂利等を敷いて堅固にしておく必要があります。

● 草生栽培することも路面を硬くする良い方法です。この場合水はけも良くスリップの心配がありません。

● 傾斜地では高い方の路面に溝を掘りクローラの案内溝とすることにより安定した走行ができます。

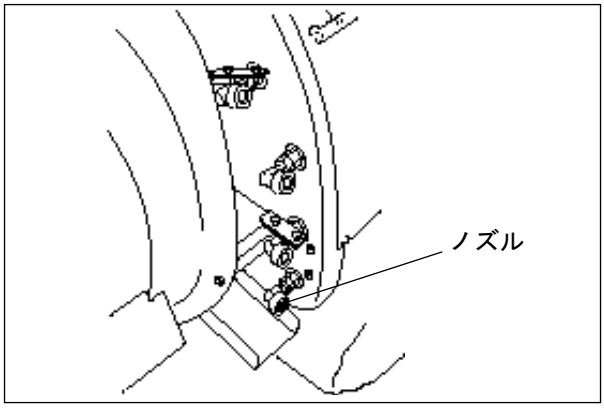
● わだちが深くなりすぎると機体下部を傷つけたり、異物を巻込みますので１０ｃｍ以上になったら路面を修正してください。

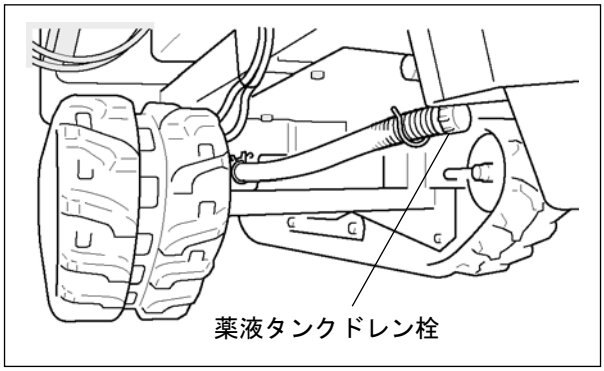


散布終了後の手入れ

⚠ 警告

- 薬液は残らないように調製し、必ず使い切ってください。
- 薬害や環境汚染を起こさないよう充分配慮してください。





清　掃

１日の散布作業が終わったら、次の要領で使用後の清掃をしてください。

洗浄運転

薬剤で汚れた部分は清水できれいに洗浄します。
機体は常に清潔な状態にしておくことを心掛けてください。

- 薬液タンクに清水を補給し散布の要領でノズルから吐出し、薬液配管内の洗浄を行ないます。
- ノズルプラグの使用個所も時々はずして清掃してください。
- こし網（タンク入口こし器、分配器、ストレーナ）をきれいにします。
- 薬剤の粗粒がつまっていることが多いので良く清掃してください。
- 右上・左上の各薬液管は２個ついているノズルのいずれか一方を、右側・左側の各薬液管は最下側のノズルを外して水抜きします。
- 薬液系のドレン栓は次の通りです。
  薬液タンクドレン　　１個
  噴霧用ポンプドレン　１個

送風機の清掃

- 送風機の入口に木の葉、小枝およびその他の異物がついていると、送風効果が低下しますのでその都度取除きます。
  （必ずエンジンを停止し、ファンが確実に止まっていることを確認してから行なってください。）

寒冷時の格納

重要

- 寒冷時の使用後は、凍結による破損事故を防ぐため、特に各部の水抜きは完全に実施してください。凍結による不具合は、メーカの責任外となります。
- 水抜きなどで噴霧用ポンプのカラ運転を行なう場合は、５分間以内としてください。カラ運転による噴霧用ポンプの破損は、メーカの責任外となります。

- 凍結による破損事故を防ぐその他の方法として、不凍液を配管内各部に入れる方法もあります。
  その場合は、水と不凍液の混合液を作って薬液タンクに入れ、一度噴霧用ポンプを運転しノズルから吐出します。（混合液の濃度は、不凍液の説明書に従って決めてください。）

⚠ 警告

- 凍結防止に不凍液を使用した場合、次に本機を使用する際の不凍液の回収は、不凍液の説明書に従って実施してください。
- 環境汚染を起こさないよう充分配慮し、直接外部に廃棄しないでください。

点検・整備

本機の点検、調整を怠ると事故の原因となることがあります。常に点検を行なって、本機を正常な状態に保つことが安全につながります。必ず実施してください。

● 始業点検は、使用者の方が行なうものです。
● 点検して異常があった場合は、すみやかに販売店または整備工場へ修理を依頼してください。
● ご不明の点は販売店にご相談ください。

◎‥‥エンジン始動前に、使用者が点検してください。
●‥‥エンジンを始動させ、始業前に使用者が点検してください。

項目	点検内容	点検時間			
		始業	初回 20時間	100時間毎	1年、又は300時間毎
走行ベルト	ベルトの張りは適正か		○	○	
	亀裂、損傷はないか		○	○	
ミッション	油量は適切か		○	○	
	油のよごれはないか			○	
	油漏れはないか	◎			
	油の交換				○
燃料	燃料タンクに燃料は入っているか	◎			
	燃料キャップは確実に締まっているか	◎			
可燃物の付着	本機およびエンジンに草、屑等の可燃物が付着していないか	◎			
エンジンスイッチ	エンジンが始動・停止するか	●			
緊急停止スイッチ	エンジンが停止するか	●			
緊急停止レバー	エンジンが停止するか	●			
マーク類	マークのはがれ、脱落、損傷はないか	◎			
フレーム	亀裂、変形、腐食はないか				○
足回り	ゴムクローラの亀裂、損傷はないか	◎			
	遊動輪の亀裂、損傷および磨耗はないか				○
	クローラ張りの調整		○		
	遊動輪の亀裂、スイングアーム支点のグリスアップ			○	
エンジン	オイルの量は適切か	◎			
	オイルの漏れはないか	◎			
カバー類	各カバー類に亀裂、変形、損傷はないか				○
	各カバー類に脱落はないか	◎			

項　　目	点　　検　　内　　容	点　検　時　間			
		始　業	初　回 20 時間	100 時間 毎	1 年、又は 300 時間毎
スロットルレバー	レバーの動きに合わせて、エンジン回転数が変化するか	●			
サイドクラッチレバー	本機が旋回するか	●			
	レバーの遊び代は適切か		○		
	サイドクラッチワイヤの調整		○		○
	支点部の注油			○	
変速レバー	各変速位置に入るか	●			
	支点部の注油			○	
バッテリ	バッテリ液面レベルの点検	◎			
クラッチ・ブレーキレバー	レバーは確実に入り、戻るか	●			
	スムーズな発進と停止ができるか	●			
	走行クラッチロッドの調整		○		○
	支点部の注油			○	
駐車ブレーキ	ロッドの調整		○		○
	支点部の注油			○	
ポンプベルト	ベルトの張りは適切か		○	○	
	ベルトに亀裂、損傷はないか		○	○	
噴霧用ポンプクラッチレバー	レバーは確実に入り、戻るか	◎			
	動噴クラッチロッドの調整		○		○
	支点部の注油			○	
噴霧用ポンプ	オイルの量は適切か	◎			
	オイルの漏れはないか	◎			
送風機	ベルトの張りは適切か	◎			
	ベルトに亀裂、損傷はないか	◎			
	ファンの締付のゆるみ、変形、亀裂、損傷はないか	◎			
テンションアーム支点	グリースニップルより補充			○	

重要

交換後のオイルなどは、ゴミの中や地面、排水溝などには捨てないでください。処理は購入した販売店に相談してください。

故障対策

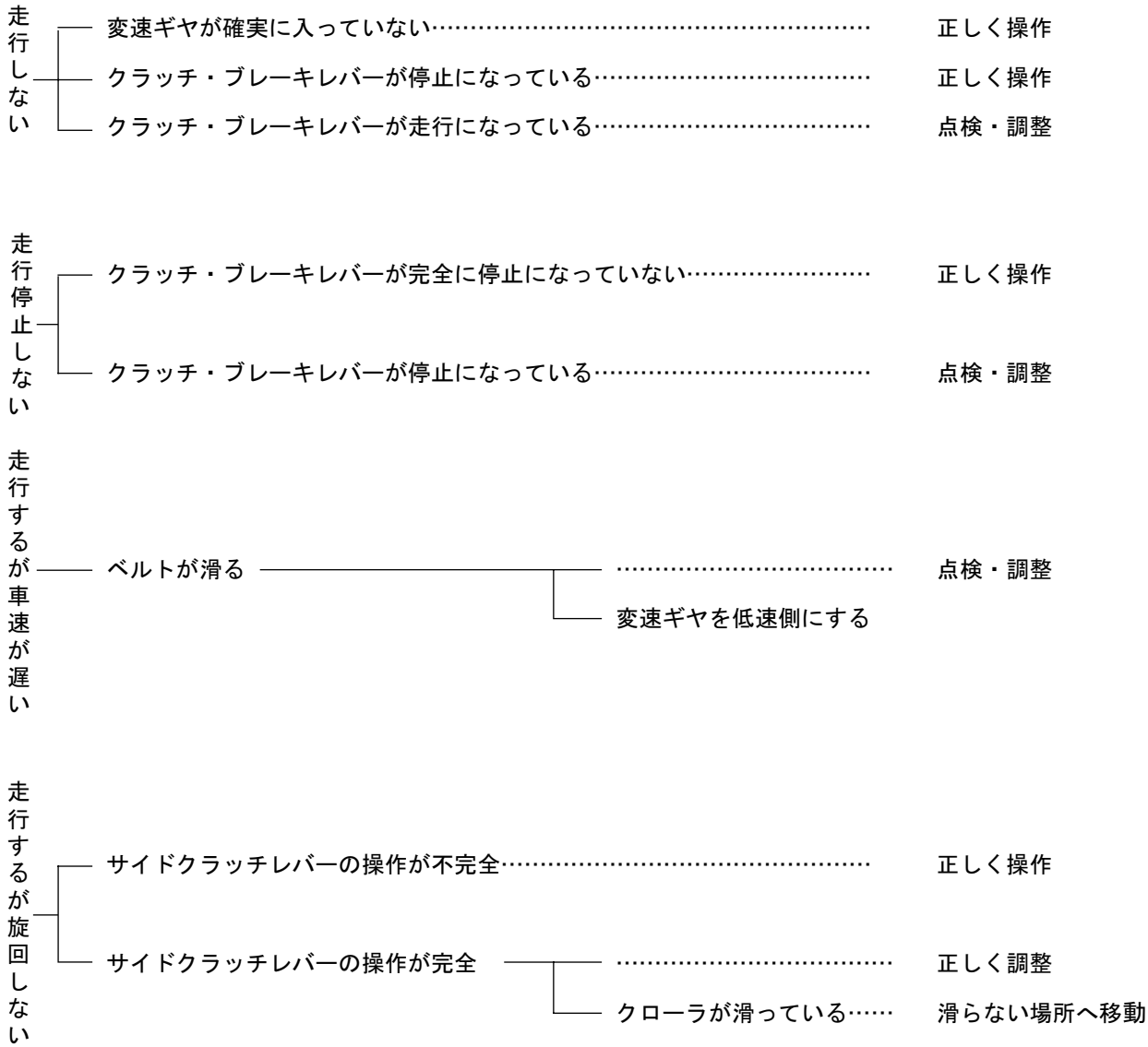
（☆印は販売店または整備工場での調整がのぞましいもの）
クローラスプレーヤを防除時期に満足に使用していただくためにはいつも点検・整備を忠実にしていただくことです。万一運転不調を生じた場合は次の故障探求表によって順次しらべるようにしてください。
ご不明の点は販売店にご相談ください。

● 故障探求表

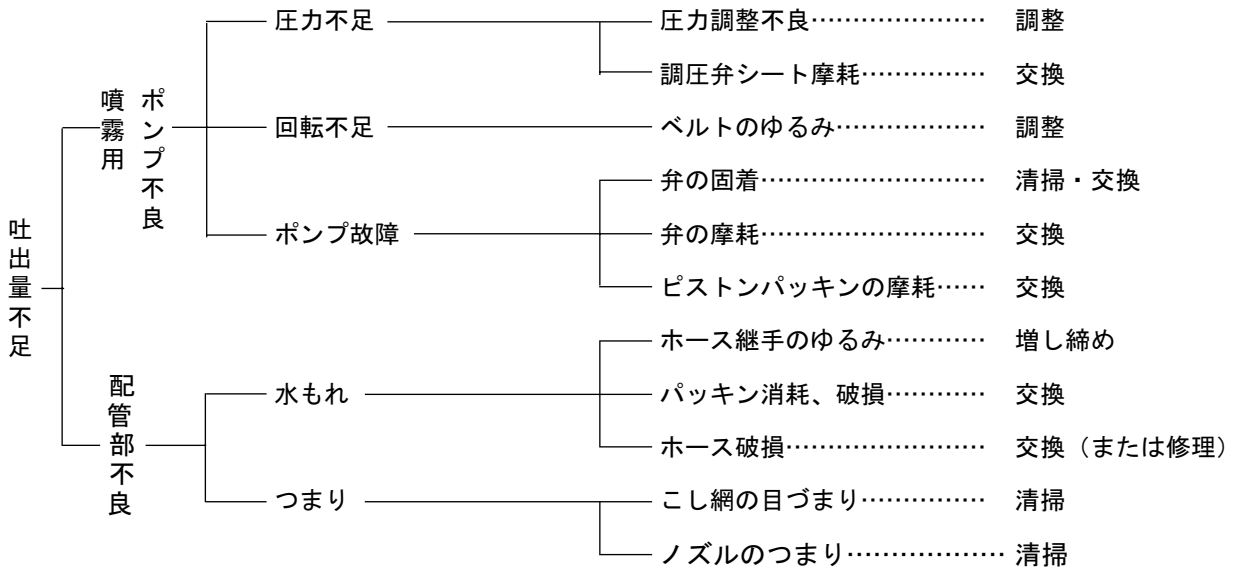
・エンジン関係

エンジンが始動しない又は困難	リコイルが引けない	エンジンの焼付き……	☆修理・交換
		異物のかみ込み……	☆清掃・交換
	スタータが回転しない（リコイルは引けるが始動しない）	バッテリの放電……	充電する
		配線のゆるみ、不良……	点検
		スタータキースイッチ不良……	☆交換
		クラッチ・ブレーキレバーが走行位置にある…	停止位置とする
	スタータは回転するが始動しない（リコイルは引けるが始動しない）	燃料タンクに燃料がない……	補給
		燃料コックが閉じている……	正しく操作
		気温が低い……	チョークを閉とする
		スイッチが運転になっていない……	正しく操作
		緊急停止スイッチが「入」になっている……	「切」にする
	エンジンは始動するが回転が続かない	低速回転の調整不良……	調整
		燃料に水又はゴミの混入……	清掃
		チョークレバーが閉になっている……	正しく操作
エンジン出力不足	スロットルが全開になっていない……		正しく操作・調整
	吸入空気量の不足	チョークレバーが完全に開になっていない…	正しく操作
		エアクリーナの汚れ……	清掃・交換

・走行関係


走行しない
変速ギヤが確実に入っていない……正しく操作
クラッチ・ブレーキレバーが停止になっている……正しく操作
クラッチ・ブレーキレバーが走行になっている……点検・調整
走行停止しない
クラッチ・ブレーキレバーが完全に停止になっていない……正しく操作
クラッチ・ブレーキレバーが停止になっている……点検・調整
走行するが車速が遅い
ベルトが滑る
……点検・調整
変速ギヤを低速側にする
走行するが旋回しない
サイドクラッチレバーの操作が不完全……正しく操作
サイドクラッチレバーの操作が完全
……正しく調整
クローラが滑っている……滑らない場所へ移動

・薬液散布関係


吐出量不足
噴霧用
ポンプ不良
圧力不足
圧力調整不良……調整
調圧弁シート摩耗……交換
回転不足
ベルトのゆるみ……調整
ポンプ故障
弁の固着……清掃・交換
弁の摩耗……交換
ピストンパッキンの摩耗……交換
配管部不良
水もれ
ホース継手のゆるみ……増し締め
パッキン消耗、破損……交換
ホース破損……交換（または修理）
つまり
こし網の目づまり……清掃
ノズルのつまり……清掃

長期格納整備

格納整備（年間整備）

本年の散布作業が終了して、来年使用されるまでの遊休期間中に本機を分解、清掃、修理整備を行なっておき来年の散布作業が支障なくできるようにしておきましょう。
格納整備は販売店にご相談ください。

○ 格納整備の実施については使用状況により相違がありますが、通常次の項目に大別されます。

● エンジン
本機からエンジンを降ろしてオーバーホールをし、不良箇所は修理し、清掃・点検・調整が細部にわたって行なわれます。

● 噴霧用ポンプ
機体からポンプを降ろしてオーバーホールをし、不良箇所は整備し、清掃・点検・調整が細部にわたって行なわれます。

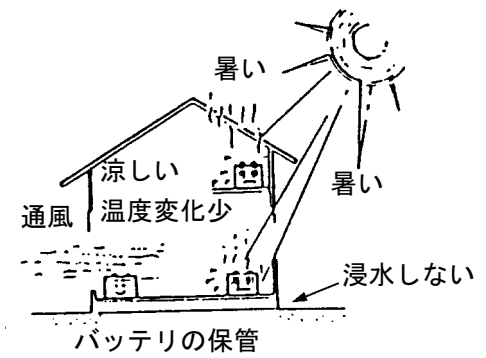
● 薬液配管
薬液配管の外傷、へたり、漏れなどがないか調べます。

● 送風機
軸受部、継ぎ手などが滑らかで静かに回転しているかどうかを調べます。
筐体部に腐触が多い場合、再塗装します。

● 走行部
駆動部分、ブレーキ、クラッチなどの摩耗、ゆるみなどを調べます。車体に腐触が多い場合、再塗装します。

● バッテリ
バッテリはたえず自己放電し、約３ヶ月で使用不可能となりますので、長期間本機を使用しない場合は、１ヶ月に１度は必ずバッテリ液の量を確認し、補充電してください。
１ヶ月を越えて格納する場合は、マイナスターミナルを外してください。
また冬期はバッテリ液温が特に低下し、極板の損傷につながるおそれがありますのでバッテリを本機から取外し、通風を良くし、温度変化が少なく涼しい所に保管しておくように心掛けてください。

雨霧・直射日光・浸水・有害な液滴……×
乾燥・通風良く・温度変化少・涼しい…○



重要

点検・整備は、本取扱説明書およびエンジンの取扱説明書に従って行なってください。

○ 整備後の長期格納保管には、次の処置を取りましょう。

● エンジンから燃料を抜いてください。
● 配管内の水を完全に排出します。
● 薬液タンクの蓋、薬液タンクドレン栓は開いておきます。
● 金属表面の出ている所は油布で軽く表面を拭いておきましょう。
● 保管は風通しのよい、湿気の少ない場所へ防塵カバーを掛けて格納します。

仕　様

形　　式				ＳＳＣ４３３	
区　　分				Ｓ	Ｔ
機体寸法	全長		mm	２３５０	
	全幅		mm	９１０	
	全高		mm	１１２０	
機体質量	乾燥		kg	４６０	４７０
	全備		kg	８６０	８７０
エンジン	型式		― ―	三菱ＧＢ２９０（Ｌ）セル付（走行・ポンプ用） 三菱ＧＢ２９０（Ｌ）セル付（送風用）	
	種類		―	空冷４サイクル単気筒ガソリンエンジン	
	総排気量		mL	２９６	
	最大出力		kw（PS）	５．９　（８．０）	
	定格出力		kw（PS）	４．４　（６．０）	
	使用燃料		―	自動車用無鉛ガソリン	
	燃料タンク容量		L	６	
	始動方式		―	リコイル及びセルスタータ	
走行部	形式		―	クローラ方式	
	クローラ		―	２００^{W}×７２^{P}×４３^{h}　（千鳥）	
	変速段数（段）		―	前進３段・後進３段	
	走行速度	前進／後進１速	km/h	１．０／１．０	
		前進／後進２速	km/h	１．９／１．９	
		前進／後進３速	km/h	３．２／３．２	
薬液タンク容量			L	４００	
かくはん方式			―	ジェットノズル式	
噴霧用ポンプ	型式		―	ＳＰ６１７	
	常用回転数		rpm	１０００	
	常用吐出圧力		MPa（kgf/cm^{2}）	１．５　（１５）	
	吐出量		L/min	４８	
給水ポンプ			―	（ジェットポンプはオプション）	
送風機	形式		―	軸流形	
	常用回転数		rpm	１９００	
	使用時風量		m^{3}/min	２７０	
ノズル部方式			―	固定式	回転式（傾斜散布式）
ノズル	種類		―	扇形ノズル	
	個数		個	１４　（スイッチノズル８）	
	ノズル総吐出量		L/min	２８	
	圧力		MPa（kgf/cm^{2}）	１．５　（１５）	

※より良い製品を造るために予告なく仕様を変更する場合もあります。

付属部品一覧

部　品　名　称	個　数	部　品　番　号	備　　考
製品取扱説明書	1	Ｘ７５００２２４９０	
ポンプ取扱説明書	1	－	
エンジン取扱説明書	1	－	
保証書（製品）	1	－	
特別保証書	1	－	
ノズルディスク（プラグ）	2	９１４８２５１１６００	
リキッドノズル	2	９１７５２５１０１０１	
リキッドノズル	2	Ｅ２９００００６６１	Ｓ２
リキッドノズル	2	Ｅ２９００００７０１	Ｓ６
パイプパッキン	2	９１７５２５１０５０1	
オーリング	2	９００７２０００１２	
１８㎜ナット	2	９１７５２５１０２０２	黒
じょうご	1	９１０１１５１０５０１	
防除マスク	1	８９８５４４０１１１２	
防除用カッパ	1	９１０３００１５７２０	
保護メガネ	1	９１０３００１５７１０	
オイラ	1	８９８５７４０２３５０	
スパナツール（１０×１３）	1	８９５１２３０３８３０	
スパナツール（１７×１９）	1	９１１７３８１０３００	
工具ケース	1	Ｘ６９８０００００	

株式会社やまびこ

〒198-8760 **東京都青梅市末広町 1-7-2**　　**Tel 0428-32-6181**

やまびこ北海道株式会社
〒004-0041　北海道札幌市厚別区大谷地東 1-2-20　　Tel 011-891-2249（代）

やまびこ東北株式会社
〒984-0002　宮城県仙台市若林区卸町東 5-1-50　　Tel 022-288-0511（代）

やまびこ東部株式会社
〒198-0025　東京都青梅市末広町 1-7-2　　Tel 0428-32-1091（代）

やまびこ中部株式会社
〒452-0031　愛知県清須市西枇杷島町宮前 1-39　　Tel 052-502-4111（代）

やまびこ西部株式会社
〒701-0221　岡山県岡山市南区藤田566-159　　Tel 086-296-5911（代）

やまびこ九州株式会社
〒816-0943　福岡県大野城市白木原 5-3-7　　Tel 092-573-5361（代）

やまびこ産業機械株式会社
〒731-3167　広島市安佐南区大塚西6-2-11　　Tel 082-849-2005（代）

ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

X750-022 49 0
X750013-030 0
1304/05I 1863 ES

© 2013 株式会社やまびこ　著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。